

FPCO REPORT 2024 エフピコ レポート



エフピコグループマスコットキャラクター
ピコザウルス

 **エフピコ**

エフビコは、食品トレー・容器の製造・販売事業を通じて、皆様の快適な食生活の創造に努めています。これからも、創業以来貫き続けてきた「現場主義」「顧客第一主義」を徹底し、「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」「どこよりも競争力のある価格で」「必要なときに確実にお届けする」を実践していきます。

MOTTO

社訓

1. 責任
2. 自信
3. 和
4. 忍（がまん）
5. 健康

MISSION

経営理念

「現場主義」「顧客第一主義」に則り、
「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」
「どこよりも競争力のある価格で」
「必要なときに確実にお届けします」

VISION

エフビコグループが目指すもの

食品トレー・容器メーカーとして

持続可能な社会の構築
安心・安全で豊かな食生活の創造
「必要なときに確実にお届けする」インフラの確立

社会の一員として

経営基盤の強化
地域社会との共生

Contents

社訓・経営理念・エフビコグループが目指すもの	1
佐藤代表メッセージ	3
エフビコの価値創造プロセス	9
事業内容／主な製造・販売製品	11
エフビコ製品の主な特徴	13
安田社長メッセージ	15
エフビコグループのバリューチェーン	17
調達	19
マーケティング	21
製品開発	23
製造	25
物流	27
販売	29
リサイクル	31
特集	33
マテリアリティ	37
エフビコグループの重要課題	38
TCFD提言に基づく情報開示	39
CO ₂ 排出削減の取り組み	40
エフビコ方式リサイクル	41
エフビコ環境基金	43
新たな価値を提供する製品の開発	45
製商品の安定供給	46
従業員のエンゲージメント向上	47
インクルージョンの推進	49
コーポレートガバナンス	51
健康経営	53
人材育成方針	55
コミュニティへの参画	56
企業プロフィール	57
グループ会社・拠点一覧	58
グループ相関図	59
人材データサマリー	61
財務サマリー（連結）	62
環境データサマリー	63
社会的な評価	65
エフビコのあゆみ	67
編集後記	70

イントロダクション

エフビコグループの
バリューチェーン

マテリアリティ

企業プロフィール

エフビコレポート2024 発行日：2024年6月

編集方針／エフビコらしさを皆様にご理解いただけるよう、各活動の実績、これからエフビコが目指す方向性を明確に記載するよう心がけました。
本レポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン（2018年）」、国際統合報告フレームワーク（IIRCフレームワーク）、および「価値協創ガイダンス2.0」を参考にしました。／対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日／対象範囲：株式会社エフビコ、およびエフビコグループ

Top Message



代表取締役会長
兼 エフビコグループ代表

佐藤 亨

どのような時であっても
安定供給の責任を果たし、
安全・安心な食生活を
支えてまいります。

関西工場・関西ハブセンターの 設立による安定供給の強化

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震により、犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様からお見舞いを申し上げます。

地震を含め大規模な自然災害が多発している昨今において、メーカーとして最も重要なことの一つは安定供給です。エフビコは「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」「ど

こよりも競争力のある価格で」「必要なときに確実にお届けする」という経営理念を掲げ、その実現をどのような時でも追求し続けています。

2023年、兵庫県小野市に関西圏の大型拠点「関西工場・関西ハブセンター」が竣工しました。敷地面積48,000㎡、生産工場と物流センターの2つの機能を持つ複合施設で、これにより全国の配送センターから半径100km圏内で日本の全人口の約85%をカバーする物流ネットワークが完成しました。稼働を開始してから1年半、順調に生産・物流のオペレーションを続けています。以前は福山から和歌山・奈良・大阪へ行っていた製商品の配送は地元関西からの発送に完全移行し、物流2024年問題[※]への対応にもつながりました。

今後も食品トレー・容器の安定供給を通じて、安全・安心な食生活を支えてまいります。

※2024年1月からトラックドライバーの年間時間外労働時間の上限が960時間に規制されることによって生じる様々な問題



関西工場・関西ハブセンター



関西拠点の太陽光発電設備



「ストア to ストア」のリサイクル
(エフビコフェア2024)

リサイクル・太陽光発電など による環境への対応

安定供給と並行して推進しているのが事業活動におけるCO₂削減です。エフビコは1990年より、消費者の方々・ユーザー様・包材問屋様と協力して使用済み食品トレーをリサイクルする「エフビコ方式リサイクル」をスタートさせました。回収拠点は現在約10,680拠点にまで拡大し、「トレー to トレー[®]」「ボトル to 透明容器[™]」の水平リサイクルを推進しています。

その中で、スーパーマーケット様と協働で進めているのが、お店で使用した食品トレー・ペットボトルをそのお店で資源として回収し、食品トレー・透明容器に再生して再びそのお店で積極的に使用する「ストア to ストア」のリサイクルです。「お店が地域のエコリーダー」となることで消費者の水平リサイクルへの参加が進み、より多くの使用済み食品容器・ペットボトルが回収され、CO₂排出削減が進むことを目指しています。

2022年11月～2024年3月には中国・九州・東北地方のCGCグループ様と、2023年10月には株式会社エブリイ様とリサイクルによるCO₂削減に向けた共同活動を開始

しました。

加えて、新たなリサイクル技術の研究にも継続して取り組んでいます。現在「エコトレー」へとリサイクルしているのは白トレーのみであり、色や柄のついたトレーは他のプラスチック製品の再生原料となっています。そこで、色・柄トレーも食品トレーへとリサイクルするための技術開発をDIC株式会社様と共同で行っており、同社の脱墨技術を活用したポリスチレンの溶解分離リサイクルによる製品供給を2025年には実現できる予定です。さらにスチレンモノマーまで戻すケミカルリサイクル技術の研究も行っており、これらの新技術を通じて再生原料の量を増加させ、エコ製品の拡大を果たしてまいります。

さらに、2024年3月、関西工場・関西ハブセンターで太陽光発電の運転を開始したことにより、全国3カ所のリサイクル工場を動かす電力が太陽光発電の電力となりました。これにより石油由来製品と比較した場合のエコトレーのCO₂削減効果は2024年7月1日出荷分より従来の30%から、37%へ上昇します。

お客様のニーズを捉えた 製品価値拡大への取り組み

エフビコグループは、食品売り場の現場で得た情報や経験をもとに、お客様の課題解決につながる製品開発を展開しています。製品開発の中枢となるのが「エフビコ総合研究所」で、今年で設立10周年を迎えました。開発テーマとしては、環境への対応施策としての「プラスチック使用量の削減」「人手不足対策」「拡大する冷凍市場対応」などです。

容器包装リサイクル法の観点から、スーパーマーケット様やコンビニエンスストア様を中心に、プラスチック容器の軽量化ニーズが高まっています。そのニーズに対応して、エフビコでは低発泡PSP成形の新技術による製品ラインナップを拡大させています。従来、寿司桶など蓋とのしっかりとしたかん合を必要とする大型容器や、シャープな形状を必要



非発泡容器と同等の強度とシャープな形状を維持しながら、50～60%のプラスチック軽量化を実現した「祝賀桶」(上)「水戸桶」(下)

とする容器を発泡PSPシートで製造することは不可能とされてきました。しかし、積水化成品工業株式会社の発泡技術とエフビコの独自技術である両面真空成形を組み合わせることで、非発泡容器と同等の強度とシャープな形状を維持しながら、50～60%の軽量化を実現する画期的な新技術(特許出願済み)を開発しました。この技術を活用し、新低発泡PSP容器のラインナップを大幅に拡充させてまいります。

近年、日本社会全体でも大きな問題となっている人手不足への対策は、スーパーマーケット様でも急務となっています。これまで人の手で行っていた盛付けやラベル貼り、容器の蓋閉めといった作業を自動化する機械をバックヤードに導入したり、その作業自体をプロセスセンター(PC)やセントラルキッチン(CK)に集約するという形態への移行が進んでいます。こうした動向を受けエフビコでは、PCやCKからの輸送を考慮してコンテナのサイズに合わせた製品や移動中の汁漏れ・ずれ抑制の工夫をした輸送適性の高い製品、さらに機械による蓋閉めにも対応した強度をもつ製品等を開発しました。

また、昨今の冷凍食品市場の拡大に対応した素材の開発も積極的に実施してきました。エフビコは冷凍食品に対応した食品容器・トレーとして、耐寒耐熱性を備えた発泡ポリスチレン製品「マルチFFP」、2軸延伸PET製容器(OPET)、「耐寒PPiP-タルク」素材を使った製品の3種類をラインナップしています。「耐寒PPiP-タルク」は、従来の耐寒PP製品と同じ強度・耐衝撃性を維持しながら、プラスチック使用量も25%以上削減しました。

今後も、エフビコの独自技術を活かし、お客様のニーズに応え、環境に配慮した付加価値の高い製品を開発して、お客様にお届けしてまいります。



「耐寒PPiP-タルク」は、従来製品と同じ強度・耐衝撃性を維持しながらプラスチック使用量を25%以上削減

耐寒PPiP-タルク



「RD チェックシステム」



株式会社アベックス本社（福岡市中央区）

物流2024年問題への対応

ドライバー不足と時間外労働の上限規制といういわゆる「物流2024年問題」への対応は喫緊の課題です。しかしエフビコではいくつかの取り組みの積み重ねにより、この問題に対してスムーズな対応ができています。

そのひとつが関西工場と関西ハブセンターの稼働です。以前には広島県福山市から関西地方へ配送していた製商品を兵庫県小野市からの配送に移行することにより走行距離と時間が大幅に削減され、ドライバーの拘束時間も短縮されました。

もうひとつは、長年にわたり物流拠点で実施してきた様々な効率化対策が功を奏しているということです。なかでも「RD（リアルタイムデリバリー）チェックシステム」は荷受けから配送終了までのドライバーの勤務状況を詳細に把握して効率化するシステムであり、ドライバーの拘束時間短縮に大きく役立っています。

九州地方での販売力強化

2023年9月、株式会社アベックスの株式を追加取得し、連結子会社化しました。同社は九州一円の食品製造業者から大手量販店、スーパーマーケット、2次卸問屋などへの販路を持ち、九州地区における容器シェア第2位の食品包装資材ディーラーとして高い信頼を得ています。

エフビコグループの一員となり、エフビコの問屋基幹システムや物流システム、食品容器・包装資材のECサイト「PACK MARKET」、エフビコ商事のマーチャンダイジングといった各種インフラを活用することで競争力の強化を図り、飲食店向けのマーケットへの参入などを目指します。

業務全般におけるデジタル化・IT化の推進

エフビコではさらなる価値創造を生み出すためのデジタルやIT技術の採用を積極的に推進しています。2024年3月には西宮選別センターにおいて新しい選別システムを導入しました。回収された使用済みの透明容器を「PET」「OPS（二軸延伸ポリスチレン）」「PP（ポリプロピレン）」の素材別にそれぞれ「緑」「黄」「赤」に色分けして表示する装置であり、作業を行うスタッフが視覚的に分かりやすく選別できる仕組みです。これにより、一人あたりの選別量を1.5倍に増やすことが可能となっています。

また、生成AIを活用した業務システムの開発にも取り組み、日々営業スタッフが現場訪問の報告を記入している日報の内容を要約するシステムを開発しました。これにより、現場での気づきやお客様との会話の中でトレンドとなっているキーワードを効率的に抽出できるようになり、新たなマーケティング手法として活用しています。



西宮選別センターに導入した使用済み容器の選別システム



2024年のテーマは「前進」

2023年は「定着」をテーマに掲げ、関西の大型拠点の完成やマレーシアの容器製造企業への出資といった様々な取り組みを進展させ、ノウハウや成果を「定着」させることに挑戦してきました。

今年のエフビコのテーマは「前進」です。国際社会や自然環境において不安定な状況が続いており、事業環境の先行きが不透明であることに変わりはありません。しかし、この変化をチャンスと捉え、お客様の収益と価値の向上に貢献し、エフビコグループの未来への成長をさらに加速させることができると確信しています。そうした私たちの挑戦をさらに前へ進めていく一年にするという想いを「前進」という言葉に込めました。

お客様の声を傾聴し、社員が「いい会社」にするために声を上げ自ら行動していくことで、「前進」していきたいと考えています。



エフピコの 価値創造プロセス

食品トレー・容器の製造、販売、リサイクルを行っているエフピコグループは、一連の事業がつながるバリューチェーンを通じて様々な価値創造を続けています。エフピコグループは、豊かな食文化の創造とともに持続可能な社会の構築に大きな役割を果たしていくことを目指し、取り組みを進化させます。

食品トレー・容器メーカーとして



持続可能な社会の構築
安心・安全で豊かな食生活の創造
「必要なときに確実にお届けする」
インフラの確立

社会の一員として



経営基盤の強化
地域社会との共生

経営資本（2024年3月期）

財務資本		安定した財務基盤	
資産合計		自己資本比率	
2,986億円		48.6%	
製造資本		全国の生産・物流・リサイクルネットワーク	
設備投資額		生産工場	
95.9億円		21工場	
知的資本		最先端の研究設備を完備した総合研究所	
研究開発費		特許件数	
14.8億円		124件	
人的資本		適材適所で活躍する多様な人材	
連結従業員数		障がい者雇用率	
5,104名		12.6%	
社会関係資本		4者一体のエフピコ方式リサイクルの拡大	
使用済み容器回収拠点数		プラスチック資源回収量	
10,680カ所		10,500t	
自然資本		太陽光発電導入など環境負荷軽減	
CO ₂ 排出量		エコ製品販売によるCO ₂ 削減量	
約18.7万t		約20.2万t	

価値を創造し続ける バリューチェーン



エフピコグループが 生み出す価値

経済的価値		
	2024年3月期	目標
◎売上高	2,221億円	→3,000億円
◎経常利益	167億円	→300億円
事業の拡大		
◎付加価値を提供する製品 P.12、13、45		
◎新マーケットの発掘 P.21		
◎生産・物流ネットワークの構築 P.46		
環境・社会的価値		
◎リサイクルによる地上資源循環 P.31、41		
◎エコ製品の販売によるCO ₂ 排出量削減 P.40		
◎「エフピコ環境基金」を通じた取り組み P.43		
◎障がいのある人材の活躍 P.49		
マテリアリティへの取り組み P. 37、38		

理念・ビジョンに沿った事業展開
社訓 経営理念 ビジョン

事業内容／主な製造・販売製品

エフピコグループは、食品トレー・容器を製造・販売し、自社物流ネットワークを活かして、全国へ確実にお届けできる仕組みを構築しています。また、食品トレー・容器のリサイクル事業も推進しています。

製造

全国各地の消費地近郊で 生産供給体制を整備

お客様のニーズを製品開発に反映するとともに、拡大する市場に対応して食品トレー・容器を安定供給できるよう、全国に21の生産工場を配置しています。SCM（サプライチェーン・マネジメント システム）により、営業部門の販売予測をもとに生産計画を立案し、資材の調達計画、製品の供給計画・在庫計画までを一元管理しています。



物流

全国をフルカバーする 物流ネットワーク

全国に9カ所ある物流拠点から約12,000種類の製品を安定的にお届けするため、配送センターから半径100キロメートル圏内で日本の全人口の約85%をカバーする全国規模の物流ネットワークを構築しました。また、自社製品と一緒にスーパーマーケット等で必要な包装資材・消耗品や衛生・作業用品などもお届けしています。



販売

お客様の現場を起点に ニーズを把握した提案

エフピコが掲げる理念「現場主義」とは、食品販売の現場を重視し、そこからお客様のニーズを見つけ、それに応える製品をつくるという考え方です。その徹底した現場主義があるからこそ年間約1,500アイテムもの新製品をお客様に提案できています。お客様目線で見た売り場づくりのアイデアなどもご提案し「顧客第一主義」という理念も実践しています。



リサイクル

使用済み容器等は選別された後、リサイクル工場で原料に戻し、再び食品トレー・透明容器に生まれ変わります。このような「トレー to トレー[®]」「ボトル to 透明容器[™]」のリサイクルを推進しています。



スーパーマーケットの店舗などで回収された使用済み食品トレー・透明容器・ペットボトルを配送後の帰り便を活用して全国のリサイクルセンターへ運んでいます。

汎用 サイズと色柄で様々な用途に活用が可能



エコトレー（リサイクル製品）

寿司 新鮮さを損ねず美味しさを食卓まで運ぶ



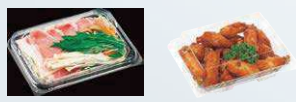
精肉 衛生的で肉の旨味や色味を引き立てる



クリアパッケージ 透明な容器が鮮度と美味しさも伝える



フードバック 衛生的で便利な機能を付加



冷凍 容器や三方袋で様々な冷凍食品に対応



鮮魚 新鮮な海の幸の魅力を引き立てる



米飯 サイズと色柄で様々な用途に活用が可能



惣菜 電子レンジ対応などで扱いやすい



催事 人が集まる楽しい催事に最適



デリバリー 様々なメニューの配達に適した容器類



その他 紙容器、鶏卵パック、フィルム製品など



PRODUCT FEATURES

エフピコ製品の主な特徴

エフピコは高い機能性とデザイン性をもったオリジナル製品を開発・製造し、お客様のニーズにお応えする高品質で高付加価値な製品をスピーディーに提供しています。

60%の軽量化を実現「低発泡 PSP」

日本初の低発泡 PSP の成形技術を開発・製造したエフピコが、従来の PSP 発泡シートでは不可能とされてきたシャープな形状を可能にし、60%の軽量化を実現しました。

プラ使用量25%以上削減「耐寒 PPiP-タルク」

従来の「耐寒 PP 製品」と同じ強度・耐衝撃性を維持しながら、プラスチック使用量も25%以上削減した「耐寒 PPiP-タルク」を開発しました。冷凍食品市場の拡大に対応します。

レンジアップしても熱くない「MFP」

耐熱温度110℃のマルチ FP (MFP) は、断熱性と保温性を両立することで、レンジで加熱した後に持っても熱くないのが特長。発泡素材のためプラスチック使用量も削減しています。

見映えと機能性を両立「成形技術」

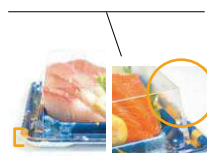
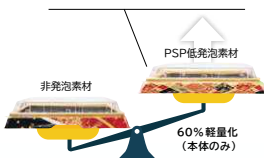
容器のステージを高く設計することで、商品のボリューム感を向上させています。また、蓋の側面の角度を極限まで立たせることで、中身を見やすく、存在感を引き立てています。

盛付けの作業性を向上「かん合技術」

蓋と本体をはめ込ませる「かん合技術」。例えば、中身を噛み込んでしまいがちの「内かん合」でも本体の形状を工夫することでこれを改善。盛付けの作業性を高めています。

現場の人手不足に貢献「機械対応」

プロセスセンターやセントラルキッチンで機械を使った盛付けが一般化する中、食品トレー・容器も機械に対応。一つの容器でトップシール・蓋のどちらの包装形態にも対応できます。



素材

耐寒耐熱性や透明性といった特長あるオリジナル素材を活かした製品開発を行っています。



エコ製品かつ軽量化「エコ APET」

再生原料を使ったエコ製品もより軽いものへ——従来品より本体を薄肉化することで、約17%の軽量化を実現しました。薄くても容器が変形しないよう蓋のリップ（凹み）にも工夫をしています。

耐油性と耐寒性に優れた透明素材「エコ OPET」

耐油性と耐寒性に優れたエコ製品。弁当の蓋にも使用され、レンジ加熱時に穴が開きにくいのが特長です。容器ごと冷凍保存しても衝撃で割れにくく、冷凍自販機用としても使用されています。

シャープな形状で食卓を彩る「MSD」

光沢感と成形性に優れる「MSD」は、重厚感かつシャープな形状、つや感により売り場と食卓の両方を彩ります。スタック性に優れ、バックヤードでも場所を取りません。

技術

お客様の課題や消費者のニーズに応える機能性のある製品を開発し続けています。



食品を際立たせる「色・柄・デザイン」

食品トレー・容器にグラビア印刷をするための「インク」を改良し、新たな金色を開発。輝度を高めることで見映えをよくし、食品をさらに彩鮮やかに見せています。

コンテナ効率を高める「輸送適性」

プロセスセンターの普及で輸送コストも増加傾向にあります。コンテナ内の積載効率を高めるために、容器サイズを見直したり、蓋を低く設定したりなど輸送適性のある容器を開発しています。

開けやすさを追求「蓋のベロ形状」

食卓やキッチンで、容器の蓋を「開けづらい」と思ったことはありませんか？蓋の角を三角の「ベロ形状」にすることで、つまみやすく、開けやすい容器を実現しています。

Top Message



“ものづくり”と“ひとづくり” その両輪でさらなる発展を

代表取締役社長

安田 和之

付加価値の高い製品を安定供給するエフビコのバリューチェーンは、SCM（サプライチェーン・マネジメント システム）によって、その全プロセスが指揮されています。

“ものづくり”の効率化で 経営理念を実現

エフビコが、最も効率的な生産・物流計画を立案し、それを実行するための指示を各部署に伝達する「SCM（サプライチェーン・マネジメント システム）」の立ち上げを開始したのは2003年のこと。以来、私はエフビコの“ものづくり”の中心的な役割を担うSCM本部の責任者を務めてきました。

昨今SCMでは2024年問題への対応に注力してきました。この問題への対応を20年間続けてきたSCMの仕組みや考え方を再構築する機会だと捉えて、さらなる効率化に向けた取り組みを続けています。

2023年、関西工場・関西ハブセンターが稼働を開始しました。これにより、関西圏の納品は輸送車両の走行距離と時間が半以下になるとともに、ドライバーの拘束時間も大幅に削減できています。また、生産・物流・販売の3部門を「中日本以東」と「中日本以西」の2エリアに分割しました。関東

と福山の間の荷動きを抑制し、長距離輸送を最小限にすることで2024年問題に対応していきます。

これ以外にも、生産・物流計画の精度を高めるために導入している人工知能（AI）を再構築しています。需要や天候などのAI予測の精度を高めることで在庫水準を下げ、生産・物流の効率化を一層図っていきます。

これらの取り組みにより、SCMが回すバリューチェーンをより効率化していくことで、「安定供給」と経営理念である「顧客第一主義」を実現し、お客様に新たな価値をご提供していきます。

他者を理解する“ひとづくり”で バリューチェーンを支える

このバリューチェーンを動かすのは、紛れもなく“ひと”、エフビコの社員です。そのため、社員同士がコミュニケーションをとり相互理解を図るための取り組みや、社員が健康で生き生きと働くための施策を実施しています。

エフビコでは、以前より新入社員が先輩社員とパディを組んで指導を受ける「マンツーマンリーダー制度」をはじめとする人材育成や、年間休日数の増加などを実施してきました。これらに加え、役員と従業員が対話する「ワイガヤ会議」といった新しい施策も開始しました。他者の立場や考えを理解する機会にするとともに、役職や年齢を超えてざっくばらんに話ができる雰囲気づくりを促進していきたいと考えています。

また、健康経営の取り組みにも注力しています。2023年度はエフビコグループ各社対抗でウォーキングの距離を競い合う「ウォークラリー」や、健康習慣やストレッチなどをテーマにした「健康セミナー」も多数開催しました。私自身も参加し、社員と交流が図れる良い機会となりました。

社長である私の役目は、SCMを中心としたバリューチェーンを効果的に回すだけではなく、社員一人ひとりと対話し、現場の声を吸い上げることにあります。今後も“ひとづくり”の各種施策を通じて、コミュニケーションを積極的に図り、エフビコのさらなる発展につなげていきます。

エフピコグループのバリューチェーン

Value Chain

Contents

- 調達 P19
- マーケティング P21
- 製品開発 P23
- 製造 P25
- 物流 P27
- 販売 P29
- リサイクル P31
- 特集 P33

SCM本部



リサイクルして製造したペレット



リサイクル事業に欠かせない
使用済み製品とペットボトルの
回収ボックス



自動化された製造工程の最後は
人の目でチェック



グループ会社のエフピコ商事が運営する
「PACK MARKET」

プラスチック使用量を削減
しながら、広い天面で食料
をきれいに食べる「涼角」
「麗角」

エフピコの事業スタイル

FPCO's WAY



エフピコの価値創造プロセス

エフピコは「調達」「マーケティング」「製品開発」「製造」「物流」「販売」「リサイクル」という7つの部門で構成されるバリューチェーンによって価値を創造しています。「もっとも高品質で環境に配慮した製品を」「どこよりも競争力のある価格で」「必要なときに確実にお届けする」というお客様への約束を守り、製品の安定供給を実践しています。



エフピコのサプライチェーン・マネジメント システム

バリューチェーンをより確実で効率的に回す上での司令塔がサプライチェーン・マネジメント システム (SCM) です。販売計画及び在庫の量をもとにどの製品をどのタイミングで、どこでどのくらい製造し、どこでどの配送センターへ運ぶかなどの計画策定と実行指示を行っています。さらにその実績と計画を検証・分析して計画の精度を高めています。

調達



1/ CSR 調達

安全で社会的に適合した素材の調達を実践しています。

2/ 環境対応

リサイクル素材の使用拡大に向けた取り組みを推進しています。

3/ 安定供給

製品の安定供給のための原料・素材の恒常的な安定確保を行っています。



エフビコグループのバリューチェーン
> 調達



1/ CSR 調達方針に沿って約300社の調達先を管理

お客様が必要とする製品を確実にお届けするため、また新規製品の開発のため、安全・安心な原料を安定して調達しています。CSR 調達方針に則って公正に選定し、法令遵守を履行しているサプライヤーと協力しています。品質面の管理はもちろん、自然災害などのリスクに対応した情報共有や双方にとって健全な価格改定など、持続的な関係を構築しています。

1. 品質本位

お客様にとって価値ある安心・安全で高品質な製品・サービスをご提供するにあたり、調達活動は当グループの「品質方針」に沿って品質と安全を最優先し、さらにコストについても重視いたします。

2. 公正な取引

経済合理性、適正な品質、納期の厳守、社会規範の遵守、社会的課題への配慮、環境配慮などを総合的に勘案し、公正・透明な方法でサプライヤーを選定します。正当な理由なく、特定の取引先に利益を供与したり、不当な不利益を課すようなことはしません。

3. 法令等遵守

調達活動においては、法律及び社会規範を尊重し、いかなる場合もこれらに違反しません。反社会的勢力とは一切の関係を持たず、不当な要求は拒絶します。

4. 社会的課題への配慮

基本的人権を尊重し、労働安全衛生に配慮し、不当な差別や強制労働や児童労働などの人権侵害を行わないサプライヤーとの取引、製品・サービスの調達に努めます。

5. 環境への配慮

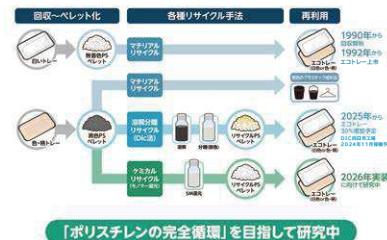
当グループの「環境方針」に則り、環境負荷低減の取り組みを推進し、気候変動、生物多様性などの環境問題の抑制や緩和に資するサプライヤーとの取引、製品・サービスの調達に努めます。

6. サプライヤーとの協働

調達にあたって社会的課題や環境への配慮をサプライチェーンにわたって実践するため、サプライヤーと長期的な信頼関係を築き、共存共栄を図ります。サプライヤーと協働しリスクの適切な管理と未然防止を徹底し、社会と経営への影響を回避する取り組みに努めます。

2/ 2025年から新たなリサイクル素材の調達をスタート

エフビコは全国のスーパーマーケットなど約1万拠点を活用し、使用済み食品トレー・透明容器・ペットボトルを回収しており、使用済み食品トレーはエコトレーや他のプラスチック製品の原料へとマテリアルリサイクルされてきました。さらに現在研究中の溶解分離リサイクルやケミカルリサイクルという新技術が確立すれば、色付きのトレーもエコトレーと生まれ変わらせることができます。エコ製品のさらなる拡大に向けて研究を進めています。



3/ 「必要なときに確実にお届けする」ための原料・素材確保のセーフティネット

必要な素材を適切な価格で購入し、エフビコの安定供給を支えるのが調達の役割です。原料、シート、副資材含め約300社と契約し、国内・国外を問わず複数の調達拠点を確保しています。調達先の工場の様子も確認し、サプライヤーと製品戦略を共有するなど積極的な情報共有により、いづつトラブルが発生しても別の拠点でカバーできる調達網を構築しています。

サプライチェーン・マネジメント システム (SCM) における調達工程の役割



マーケティング



SUMMARY

1/ 膨大な情報の収集

世の中の動きと市場のトレンドを読む
情報の収集と分析でニーズの抽出を行っています。

2/ 提案型プログラム

営業スタッフを多岐にわたってサポートする多彩な
コミュニケーション戦略を企画立案・実施しています。

3/ 付加価値創出

収集した情報から新製品や既存製品の改良を生み出す
製品開発を継続しています。

サプライチェーン・マネジメント システム (SCM) におけるマーケティング工程の役割

①情報収集：全営業スタッフの日報や食品販売の現場で採用された
課題解決に役立つアイデア・施策の事例報告に目を通す。

②分析：お客様が抱える“現場の課題”を抽出。それらの原因を分析し、仮説を立てる。

③現場訪問：販売部門の営業スタッフに同行して現場を訪問。
お客様に直接お話を伺ったり、現場を観察したりなど。

④提案：
お客様が抱える課題を解決するための容器の機能や働き
のアイデアを製品開発部門へ提供。

⑤企画：
製品の販売につなげるための各種企画を立案し、
販売部門をサポート。

製品開発のアイデア提供

販売活動のサポート

製品開発部門

販売部門

製造プロセスへ

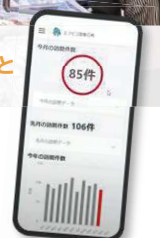
サプライチェーン・マネジメント システム (SCM)

エフピコグループのバリューチェーン
＞ マーケティング



1/ 食品販売の現場で営業スタッフが得るインサイトと 発掘するニーズが情報源

エフピコの営業スタッフが食品販売の現場から集めてきた
情報は、毎日「日報」としてマーケティング部門へと集約され
ます。2023年度には、生成AIを活用して日報を要約したり、
トレンドとなっているキーワードを抽出したりするシステムを
自社開発し、マーケティングに活用しています。



2/ 毎年様々なテーマを掲げて開催する 「エフピコフェア」などのイベント

年に1回、小売業・販売業の皆様へエフピコの最新製品やサービスを活用した「商品開発」や「売り場づくり」を提案する「エフピコフェア」を開催しています。2024年度は「『人手不足』の本番はこれから 現場の変化 支える容器」と題し、プロセスセンターや冷凍食品の活用、輸送時の工夫などをご提案しました。



プロセスセンターのトップシール機に対応する容器



コンテナサイズに適した
容器ラインアップのご提案

プラスチック使用量を削減しながら、広い
天面で食材をきれいに见せる「涼角」

3/ ニーズに応えるアイデアを形に

マーケティング部門と、製品デザインの開発を担う容
器開発部が一体となって、世の中の動きやトレンドを
即座に新たな容器の開発へとつなげる体制を構築して
います。お客様が抱えている課題やご要望を踏まえな
がら、多彩な色・柄・デザイン・かん合方法などのエフ
ピコの強みを活かし、新製品の開発や既存製品の改良
を続けています。



當間 章弘
容器開発部 開発1課
チーフマネージャー

昨今、食品価格が高騰し、商品に付加価値を
つけたというお客様が増えています。容器開
発部はこうした課題をデザインで解決する役割
を担っています。エフピコが市場の動きにスピー
ディーに対応できるのは、マーケティング部と
一体となった容器開発ができています。今
後も一歩ずつ開発を続けていきます。

SCM & value chain

製品開発



SUMMARY

1/ 付加価値創出

お客様の **ニーズを形にする製品開発力** により様々な **付加価値** を持つ製品を生み出しています。

2/ 新素材の開発

独自の技術シーズで開発する **オリジナル素材**



エフピコグループのバリューチェーン
> 製品開発



1/ 製品約 12,000アイテム、新製品の開発年間約1,500件

エフピコは約12,000アイテムの製品をラインナップし、1年間で約1,500アイテムの新製品を開発しています。これを実現しているのは、お客様のニーズを形にする製品開発力です。例えば、プラスチック使用量の削減ニーズが高まる中、エフピコは約60%の軽量化を実現する「低発泡PSP素材」を使った製品を開発。従来では不可能とされてきたシャープな形状を実現しました。これは、これまでに培ってきた成形技術によるもの。容器のリブ(凹み)の形や位置を工夫し、薄肉化と強度を両立させています。

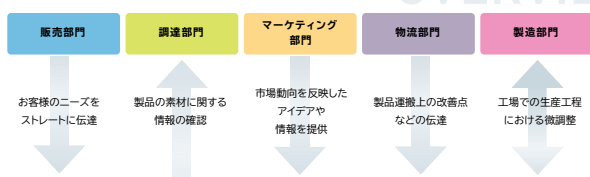


2/ 食生活の利便性や豊かさを生み出す食品容器の新素材



エフピコの基礎技術研究室では13名の研究者が新たな素材の開発に取り組んでいます。中でも、今年度開発した新素材「耐寒PPIP-タルク」は耐寒性に優れており、需要が増す冷凍市場に対応できる製品としてお客様から高い評価を頂いています。2024年4月に発表した世界初の超高剛性2軸延伸ポリプロピレンシートの開発もエフピコ総合研究所から生まれました。基礎技術研究室の合言葉は「技術の前では皆、平等」。年齢・経験を問わず、研究室の誰もが自由に意見を言い合える環境で、エフピコにしかつけないオリジナル素材を研究・開発しています。

サプライチェーン・マネジメントシステム(SCM)における製品開発工程の役割



① 製品のイメージやアイデアをスケッチや立体模型などでより具体的な形に

② ラフスケッチや立体模型などから、さらに具体的なデザイン起こし→検討・調整作業

③ 設計図の作成と素材の選定

④ 製造開始時における工場での生産工程作業の立ち会い→調整作業(必要に応じて)



素材、製造法、金型など製品製造に関する情報の伝達

サプライチェーン・マネジメントシステム(SCM)

エフピコ総合研究所設立10周年

2014年12月、容器の製造と販売のさらなる発展を遂げるための拠点として、福山本社の正面に誕生したのが「エフピコ総合研究所」です。金型の設計を担う製品開発部や素材開発を担う基礎技術研究室をはじめ、生産技術部、品質管理部、品質保証部など、製品開発を担う部門が一体となっていることが特長です。些細な相談でもすぐに集まって話ができるなど日々の密な情報共有によって開発スピードが上がったことが、年間約1,500アイテムの新製品を開発できる力の源泉となっています。また、総合研究所の4階は全て人材育成のための施設となっており、ものづくりを推進する人づくりの拠点としての役割も果たしています。

設立当時



10 YEARS

SCM & value chain

製造



SUMMARY

1/ 安定供給

SCMによる生産計画を着実に実行するため、**商圏の規模に応じた生産工場を全国21カ所**に配置しています。

2/ 人手不足対策

ロボットによる高度な自動化で生産の現場を省人化しています。

3/ 人材育成

オートメーション化された生産工程を着実に実行するための**人材育成プログラム**を実施しています。



エフビコグループのバリューチェーン
> 製造



1/ 関東、中部、関西、福山の4大拠点で巨大商圏に対応

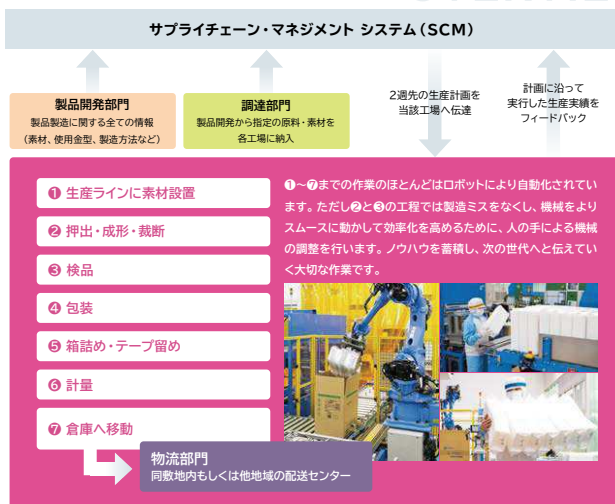
関東、中部、福山の既存の大型生産拠点に加え、**関西工場**が誕生してから1年以上が経ち、順調に稼働が続いています。これにより関西地方の巨大商圏にもスピーディに対応できる全国ネットワークが完成しました。SCMによる生産計画に基づく安定供給は、今後も着実に実行されています。



関東の生産拠点

- ・北海道工場 (北海道石狩市)
- ・山形工場 (山形県寒河江市)
- ・関東八千代工場 (茨城県結城郡)
- ・関東工場 (茨城県結城郡)
- ・関東エコバット工場 (茨城県結城郡)
- ・関東下館工場 (茨城県筑西市)
- ・筑西工場 (茨城県筑西市)
- ・関東つくば工場 (茨城県下妻市)
- ・エフビコダックス (株) 千葉工場 (千葉県習志野市)
- ・高山工場 (高山県射水市)
- ・中部工場 (岐阜県安八郡)
- ・中部エコバット工場 (岐阜県安八郡)
- ・近畿工場 (京都府亀岡市)
- ・関西工場 (兵庫県小野市)
- ・空岡工場 (岡山県空岡市)
- ・福山工場 (広島県福山市)
- ・神辺工場 (広島県福山市)
- ・エフビコダックス (株) 高知工場 (高知県南国市)
- ・九州工場 (佐賀県神埼郡)
- ・南郷工場 (宮崎県日南市)
- ・鹿児島工場 (鹿児島県鹿児島市)

サプライチェーン・マネジメント システム (SCM) における製造工程の役割



2/ オートメーション化による省人化

エフビコでは生産工場でのオートメーション化を推進しています。素材の供給や箱詰めをはじめとするほとんどの工程でロボットを活用し、その成果として製造ラインを省人化しています。



- ① AGVが金型を載せて所定の位置へ運搬
- ② 素材ロールをAGVで自動搬送
- ③ 2本のアームで素材ロールを製造ラインに送り出し
- ④ 検品後の袋詰めと箱詰めもロボットが担当
- ⑤ 自動ラインでパレット積載へ移動

3/ マンツーマンリーダーをはじめとする育成制度

エフビコの実験現場では、オフィス部門と同様に先輩社員とパディを組んで指導を受ける「マンツーマンリーダー制度」を採用しています。オートメーション化された生産工程を着実に実行するために、各工場では技能の熟練度を高める「技能判定」や遊休機を活用した試運転による実習などに取り組んでいます。

技能の熟練度を帽子の帯色で表しています



物流



SUMMARY

1/ 自社物流

徹底的な内製化による

**正確な在庫管理と
確実で迅速な配送**

2/ 物流2024年問題への対応

物流2024年問題の解決を目指す

**ドライバーの労働環境改善のため
様々な施策を実施**

エフピコグループのバリューチェーン
> 物流



1/ お客様に高品質なサービスを提供するために 配送業と倉庫業を自社展開



左側の建物にピッキングセンター、右側に配送センターを配置し、
建物間を通路でつないでいます。

エフピコは、全国のお客様に確実に製品を届けるため、食品
包装材に特化した物流ネットワークを自社で構築しています。ほ
とんどの生産工場の同数地内に配送センターとピッキングセン
ターを配置し、コンベアによる製品移動を行っています。徹底的
に内製化することで自社内に配送業と倉庫業のノウハウを蓄積し、
効率を追求することで、生産性を向上しています。

2/ 「物流2024年問題」に対応する 様々な施策

以下の主な取り組みを含め多種多様な施策や工夫を行っています。

走行距離の削減

- ・100km圏内で日本の人口85%をカバーする物流ネットワークを構築し、
長距離輸送を回避。
- ・配車計画システム「ルートプランナー」により、最も効率的な配送ルートを選定。
- ・倉庫間での製品融通（横持ち）や生産工場間の金型移動は、エリアを東西に
分けてエリアを跨がない生産・物流の計画をSCM主導で策定。

作業・走行時間の削減

- ・効率的にたくさんのケースを積み下ろしできるパレット輸送を推進。
トラック内部に隙間ができないような形状の専用パレットも開発し、
一度により多くの荷物を輸送。

ドライバーの待ち時間削減

- ・倉庫内の自動ソーターシステムがドライバーの到着時間に合わせてケースを到着バスへと仕分け。
- ・「RD チェックシステム」によりQRコードで配送状況を把握し、作業の効率化を改善。



サプライチェーン・マネジメント システム (SCM) における物流工程の役割



安定供給を持続し、人々の食生活を守るエフピコの物流網

エフピコ物流 (株)
兼 (株) アイ・ロジック
代表取締役社長
小泉 哲

エフピコは、人口が多いエリアを中心に配送センターを設置し、100km圏内
で日本の人口85%をカバーする物流ネットワークを構築しています。災害時
にもエリアへの供給を補完できる体制で、国民の食生活を支えてきました。「物流
2024年問題」に対しても、運送ドライバーの労働環境を守るために我々ができる
ことを試行錯誤し、様々な施策を積み重ね、一定の成果を上げています。今後
も飽くなく改善活動により、エフピコの強みである物流体制を磨いていきます。

2024Logistics Issue

販売



SUMMARY

1/ ニーズの把握

“現場主義”の理念に則り繰り返し何度も食品販売の現場を観察してお客様のニーズを発掘しています。

2/ 多彩な提案手法

大規模プライベートショー「エフビコフェア」をはじめとした様々な提案型営業を展開しています。

3/ 環境への対応

“ストア to ストア”（店舗を発着点としたリサイクル）によりリサイクル（環境対応）製品の販売拡大を目指しています。



1/ 「月に100人と商談・情報交換する」という“現場主義”の考え方

エフビコは、月に100人と商談・情報交換するという“現場主義”“顧客第一主義”を経営理念として掲げています。販売部門のスタッフは商談でお客様のニーズを引き出し新製品をご提案するとともに、一日に何度も食品販売の現場を観察して情報収集を行っています。そこから得た情報は全国の営業社員が毎日記入する「日報」を通じてマーケティング部門に集約され、分析されたニーズは販売部門へとフィードバック。そしてお客様の要望を満たす製品や陳列方法、販売方法に関する様々な提案を行うというサイクルを回しています。



2/ 大型展示場内にスーパーマーケットの売り場を再現する「エフビコフェア」と現場により近い「ミニフェア」でFCCを目指す

「エフビコフェア」では、お客様にスーパーマーケットの売り場を再現した展示をご覧いただきながら、様々な提案を行っています。2024年4月に開催した直近のフェアでは、人手不足への対応をテーマに「現場の変化 支える容器」というタイトルで実施し、全国から15,000人以上のお客様にご来場いただきました。

また、主要エリアでは「ミニフェア」を開催し、よりお客様に近いところで、課題に即したご提案を重ねることで「ファーストコールカンパニー（FCC）」を目指しています。



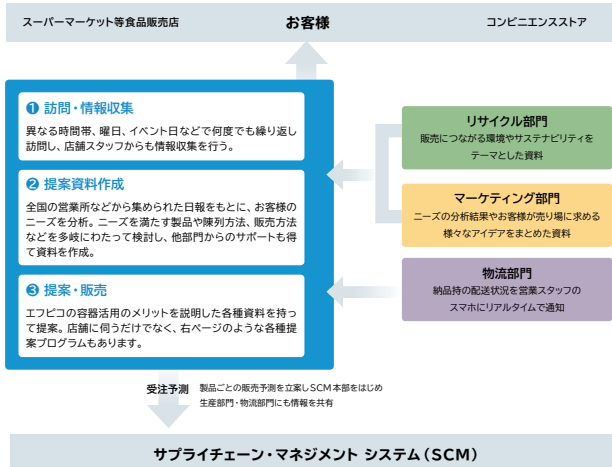
3/ お客様にとってもメリットの大きい環境対応製品

「お店」で使用・販売した食品トレイ・ペットボトルはその「お店」で回収し、トレイ・容器に再生して、その「お店」で積極的に使用する、消費者の方が日々訪れる「お店」が発着点の“ストア to ストア”のリサイクルの考えに賛同していただいたお客様との協働でリサイクルを推進しています。リサイクル製品を使用した商品を販売することが来店促進にも環境保護にもつながる仕組みです。

また、お客様と一緒に環境イベントや出前授業を実施し、さらなる認知とリサイクルの拡大を目指しています。



サプライチェーン・マネジメント システム (SCM) における販売工程の役割



リサイクル



SUMMARY

1/ 全国ネットワーク

リサイクル関連施設を全国各地に配置し、**製品リサイクルのネットワークを構築**しています。

2/ リサイクル技術の確立

回収した**使用済み製品をリサイクルして新たな製品を製造**する循環の輪をバリューチェーンの中で構築しています。

1/ 全国で1日あたり約40トンの使用済み製品を回収

- 1 北海道選別センター（北海道石狩市）
- 2 山形選別センター（山形県寒河江市）
- 3 関東リサイクル工場
- 4 関東PETリサイクル工場
- 5 茨城選別センター
- 6 東海選別センター（静岡県駿東郡）
- 7 松本選別センター（長野県松本市）
- 8 中部リサイクル工場
- 9 中部PETリサイクル工場
- 10 岐阜選別センター
- 11 金沢選別センター（石川県金沢市）
- 12 西宮選別センター（兵庫県西宮市）
- 13 福山リサイクル工場
- 14 福山選別センター
- 15 西日本ペットボトルリサイクル（株）（北九州市若松区）
- 16 九州選別センター（佐賀県神埼市）
- 17 兵庫県小野市の関西工場・関西ハブセンターの近隣に
関西選別センター（仮称）を開設予定です。

関東リサイクルセンター
（茨城県結城郡）

中部リサイクルセンター
（岐阜県安八郡）

福山リサイクルセンター
（広島県福山市）

<凡例>

- 選別センター
- リサイクル工場
- PETリサイクル工場
- ペットボトルのリサイクルのみ



エフビコグループのバリューチェーン
> リサイクル



2/ サプライチェーン・マネジメント システム (SCM) におけるリサイクル工程の役割



透明樹脂の選別に新システムを導入

2024年3月には、西宮選別センターに「PET」「OPS（二軸延伸ポリスチレン）」「PP（ポリプロピレン）」を素材別にそれぞれ「緑」「黄」「赤」に色分けして選別できるシステムを導入しました。これにより、一人あたりの選別できる量を1.5倍に増やすことが可能となりました。省人化・効率化を目指して、導入拠点を増加させるとともに、検証・改良を続けていきます。

また、人工知能（AI）を使ったロボット選別システムは2022年に福山選別センターで稼働開始しました。精度の向上を目指して改良を進めています。



西宮選別センター

特集

関西圏初の 大型生産・配送拠点として 安定供給を推進

兵庫県小野市で関西工場・関西ハブセンターが本格稼働してから1年半が経過しました。
福山の拠点から生産・物流能力の約3割を移行し、関西圏への安定供給を支える基盤となっています。



県外からの出向社員や地元兵庫県出身の社員が住むための単身向け住宅「ピコハウス5号館」を小野市内に建設しました。これも安定供給のための施策のひとつです。

【関西工場・関西ハブセンター概要】

所在地：兵庫県小野市（Oようこ小野産業団地）
構造：鉄骨造 地上4階建
敷地面積：約48,000㎡
延床面積：約80,000㎡
生産品目：PSP、APET、OPET、OPS等の食品容器・トレー
投資額：266億70百万円（土地を含む）
保管能力：26万ケース



従来関西エリアへの供給は広島県福山市の拠点から行っており、大阪市街まで片道約250km・3時間30分、和歌山市街には片道330km・5時間を要していたため安定供給の面でも大きな課題になっていました。

エフピコはこの課題を解決するために関西エリアに生産・物流拠点を構築する計画を進め、2023年1月に兵庫県小野市に関西工場・ハブセンターを開設しました。これにより、全国の物流拠点から半径100km圏内で全人口の85%をカバーできるネットワークが完成し、安定供給のレベルアップが実現したとともに、物流2024年問題への対応としても大きな効果を生んでいます。

関西工場・ハブセンターの特徴は、

生産工場とハブセンターが一体化していること。生産工場とハブセンターを同一の建物にすることで、生産・在庫・出荷を屋内で完結できるようになりました。これにより、今まで以上に衛生的な環境を整備することができ、品質の向上にもつながるとともに、生産と物流の部門連携もさらにスムーズになっています。

工場・ハブセンターにはそれぞれ最新鋭の設備を導入しています。関西工場では、AGV（無人搬送機）による金型や原反シートの自動搬送、ロボットアームによる原反シートの送り出し、成形・製品入庫作業までの一連の工程を自動化した最新鋭の設備を導入しています。従来よりもオートメーション化がさらに進み、人手不足と効率化

を高いレベルで実践する生産環境を整えています。

関西ハブセンターは、自動ソーター出荷システムやAGV、AGF（無人フォークリフト）などの最新設備を導入するとともに、全国のハブセンターで蓄積した効率化のノウハウが反映された最新の物流センターです。

また、2024年3月、関西工場・関西ハブセンターの太陽光発電設備が稼働しました。発電した電力は福山リサイクル工場のエネルギーとなります。これにより、全国3カ所のリサイクル工場で使用する電力相当が全て再生可能エネルギーとなり、エコトレーのCO₂削減効果は37%へ上昇します（2024年7月1日出荷分より）。

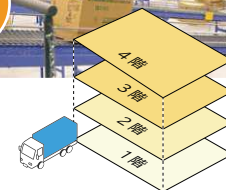
生産
1階



在庫
3・4階



出荷
1階



【関西ハブセンター】
1階 / ソーター設備・トラックバース
3・4階 / 倉庫
【関西工場】
1階 / 生産ライン
※2階は会議室や見学通路など



関西工場 × 関西ハブセンター × 大阪営業

CROSS TALK

「必要なときに確実にお届けする」
部門連携で実現する、安定供給と価値創造

担当業務と関西拠点の立ち上げ

平塚 大阪支店で近畿エリアの営業として、大阪府を中心に担当しています。

今村 私は、営業担当から売れ筋や製品採用情報を集めて社内へ情報発信を行っています。それをトレンドとして資料にまとめ、営業に同行してお客様にご説明する役割も担います。

落葉 PSP製品を生産する工場の工場長を務めています。2022年12月から、関西工場の立ち上げ準備にも関わっていました。

田口 物流の全体管理を担当しています。エフピコの営業と生産工場、パートナーである運送会社やドライバーと

をつなぎ、配送する製品に破損や誤配送がないように管理しています。関西ハブセンターの立ち上げにあたっては、2022年10月からラインテープの貼付などの倉庫の環境整備を行いました。ピークである年末の繁忙期も無事に乗り越えることができ、スムーズに立ち上げられたと感じています。

平塚 福山から配送していた約100社のお客様向けの製商品目を3段階に分けて関西工場・ハブセンター発に移管したのですが、ほとんどトラブルがなく、営業としてとてもありがたかったです。

田口 ありがとうございます。100社のお客様は、納品方法のルールがそれぞれ異なります。その内容を福山のドライバーから関西の新しいドライバーへ引き継ぐために、全ての納品先に立ち会ったのは正直苦勞しましたね。ですが、その努力があったからこそ無事に移管することができたのだと思っています。とてもホッとしています。



関西第一工場
工場担当
落葉 政晃



関西ハブセンター
センター長
(エフピコ物流株式会社)
田口 潤



近畿営業第2部
営業2課
チームマネージャー
今村 千春



近畿営業第2部
ジェネラルマネージャー
平塚 渉

関西工場・関西ハブセンター 新設による変化

平塚 近畿圏のお客様に近隣の関西工場・関西ハブセンターから配送できるようになり、営業としては安心感があります。もともと渋滞などの問題はほとんどありませんでしたが、どうしても自然災害等のリスクはつきまとうので、お客様も安心していただけていると思っています。

落葉 工場としても、安定生産を行い納期を守ることを励行しています。安定生産のために欠かせないのは、製品の品質を高めること。最高品質の製品をつくれば、不適合品も減り、競争力のある価格の製品をお客様にお届けすることができるからです。

田口 物流も、お客様に対して高品質かつ正しいものをお届けすることを意識しています。現在フォークリフトのスタッフは応援のため様々な拠点から集まっていますが、拠点ごとに細かなルールの違いがあります。そこで、ルール整備した関西ハブセンター専用のマニュアルを作成し、遵守しています。例えばパレットは、ルール通りにきちんと整理させて置くことで破損の削減にも



落葉 生産から物流には、梱包した製品を渡していますが、ここで不良があると安定供給に大きく影響が出てしまいます。日々、物流から梱包に対するフィードバックをもらい、改善すべき箇所は対応しています。

今村 営業・工場・物流による安定供給にさらに付加価値をつけるのが私の役割です。例えば、2024年問題により、配送効率の良い容器のニーズが高まっています。低量の容器をはじめ、お客様の課題やご要望に合わせた容器を営業に共有し、「エフピコに声を掛けられ何とかしてくれる」と思っていたけるようなファーストコールカンパニーであることを目指しています。

平塚 各部門が連携して、近畿圏のお客様への安定供給と新たな価値提供を継続していきたいですね。

つながっています。

落葉 生産工場も約150名のうち3分の2ほどが福山・神辺地区からの応援スタッフです。品質を高めるためにはスキルを高めることが不可欠。例えば、原反シートの発泡割合を決める作業には、素材を「見て」「触って」「判断する」スキルが必要です。数年後には地元の社員だけで安定生産することを目指し、教育を続けていきたいと考えています。

安定供給実現のための連携

平塚 欠品を防ぐためには、まずお客様から詳細な情報を聞き出すことを心掛けています。しかし、その情報を営業で止めてしまうと、その後のSCM・生産・物流に影響が出てしまいます。そのため情報をスピーディーにSCMへと共有することを意識しています。

田口 私たち物流は、営業スタッフと日々やり取りし、配送の状況なども密に共有しています。



マテリアリティ Materiality

Contents

- エフピコグループの重要課題 P38
- TCFD提言に基づく情報開示 P39
- CO₂排出削減の取り組み P40
- エフピコ方式リサイクル P41
- エフピコ環境基金 P43
- 新たな価値を提供する製品の開発 P45
- 製商品の安定供給 P46
- 従業員のエンゲージメント向上 P47
- インクルージョンの推進 P49
- コーポレートガバナンス P51
- 健康経営 P53
- 人材育成方針 P55
- コミュニティへの参画 P56



障がいのある
人材の活躍



地域とのコミュニケーション



フロアホッケーを通じた
インクルージョンの推進



日本初の低炭素成形
技術を活用して大規模な
軽量化を実現した
「新開発」

耐衝撃性に優れ、従来製品
から強度と重量を安易に、プラスチック使用量を25%削減した「新開発PPH-タルク」

エフピコグループの重要課題

Materiality

エフピコグループでは、ビジネスモデルの持続可能性にとって重要なリスク及び機会の観点から、重要課題（マテリアリティ）を定めて、様々な取り組みを行っています。

目指す姿	エフピコグループの重要課題（マテリアリティ）	取り組み	関連するSDGs
持続可能な社会の構築	◎CO ₂ 排出削減	○太陽光発電設備の導入 ○再生原料を使用したエコ製品の拡大	7 持続可能なエネルギー 12 持続可能な消費と生産 13 気候変動
	◎プラスチックごみ問題の解決	○リサイクルボックスによる使用済み製品の回収 ○「エフピコ環境基金」を通じた活動	14 海洋資源 15 陸域生態系
安心・安全で豊かな食生活の創造	◎新たな価値を提供する製品開発	○価値創造提案 ○新素材の研究開発 ○製品のプラスチック使用量削減 ○食品ロスの削減	9 産業、科学、技術と革新 12 持続可能な消費と生産
「必要なときに確実に届く」インフラの確立	◎製商品の安定供給	○サプライチェーン・マネジメント（SCM） ○全国各地の生産・物流ネットワーク構築 ○災害対策（非常用自家発電設備と燃料備蓄、防災施設設置）	8 持続可能な産業と雇用
経営基盤の強化	◎従業員のエンゲージメント向上 ◎インクルージョンの推進 ◎コーポレートガバナンス	○ディセントワーク（健康・安全で働きがいのある仕事）の推進 ○障がい者雇用などダイバーシティ経営 ○人材マネジメント（人事制度、各種研修プログラムの充実） ○業務全般におけるDX推進	5 ジェンダー平等 8 持続可能な産業と雇用 10 人や国の不平等の解消 16 平和と公正
地域社会との共生	◎コミュニティへの参画	○リサイクル工場見学や出前授業の実施 ○「エフピコ環境基金」を通じた地域社会と一体で進める環境活動 ○子ども食堂への容器寄贈	17 持続可能なパートナーシップ

TCFD 提言に基づく情報開示



エフビコグループは気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言への賛同を表明しており、気候変動がエフビコグループに与える影響についてのシナリオを想定したガバナンス体制、経営を行っています。

TCFD 提言の枠組みを通じて、①気候変動に関するリスクやシナリオを想定し、大きく環境が変化する場合でも何も起こらない強靱なガバナンス体制を運用すること、②顧客ニーズを迅速にとらえ、事業の持続的成長のための機会として活かすことの両面において、グループ一丸となって取り組んでいます。

▶詳細は [HP \(https://www.fpcg.jp/esg/environment/effort/tcfd.html\)](https://www.fpcg.jp/esg/environment/effort/tcfd.html) をご覧ください。



リスク管理

全社的なリスク管理については、経営会議（毎月）や情報交換会（毎週）を開催し、管理体制を構築しています。気候関連については、製品・SCM・生産・物流・販売・オフィスの各部門に設置したWG（ワーキンググループ）が主体的に様々な目標を立てCO₂排出量削減に向けた取り組みを実施しており、環境戦略、TCFD推進管理委員会がこれらの進捗状況及び結果の報告を受け、評価を行っています。

指標と目標

エフビコグループ中・長期環境目標（次頁）を策定し、様々な取り組みを推進します。

外部評価

エフビコは、気候関連のリスクをふまえたガバナンス体制のもと、積極的な情報開示を行っています。2023年度には国際的な非営利団体であるCDP[®]により、気候変動に対する先進的な取り組みと透明性の高い情報開示などが評価され、「気候変動」のテーマで最高評価である「Aリスト企業」に初めて選定されました。

あわせて、企業が気候変動課題に対してどのように効果的にサプライヤーと協働しているかを評価する「サプライヤーエンゲージメント評価」においても、最高評価の「サプライヤーエンゲージメント・リーダー」に選定されました。

また、エフビコは世界の代表的なESG（環境・社会・ガバナンス）投資の指数「FTSE4Good（フィッチ・フォー・グッド）Index Series」の構成銘柄に5年連続で選定されています。なお、世界最大規模の機関投資家であり、日本の公的年金を運用するGPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）が採用している6つのESG指数のうち、5つ（「FTSE Blossom Japan Index」、「FTSE Blossom Japan Sector Relative index」、「S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」、「Morningstar 日本株式エンゲージメント・ダイバーシティ・ティルト指数（除くREIT）」、「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」）の構成銘柄に選定されており、今後も適切な情報開示・ステークホルダーとの対話を継続しながら事業活動を通じた社会課題解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。

※ Carbon Disclosure Project (CDP)：2000年に発足された英国の慈善団体が管理する非政府組織。投資家、企業、国家、地域、都市が自らの環境影響を管理するためのグローバルな情報開示システムを運営している。



CO₂排出削減の取り組み



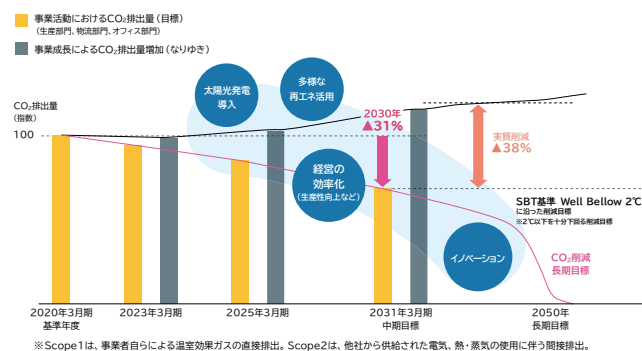
エフビコグループは、サプライチェーン全体でのCO₂排出量削減が一層求められることを重要な経営課題と認識し、脱炭素社会の実現に向けて様々な取り組みを行っています。

地球温暖化による気候変動というグローバルな課題に対し、エフビコグループが果たす責任とその役割として、脱炭素社会の実現に向けた中・長期目標を策定しています。目標値としては、【2031年3月期までにCO₂排出量（Scope1・2[※]）31%削減】及び【2050年度までにCO₂排出量（Scope1・2）の実質ゼロ】を目指します。

エフビコグループ 中・長期環境目標

- I 事業活動全体におけるCO₂排出量（Scope1・2）を2031年3月期までに2020年3月期比31%削減します。
- II エコ製品（エコトレ、エコAPET、エコOPET）によるCO₂排出削減量を2031年3月期までに27.2万tに増やします。（2020年3月期比170%増）
- III 事業活動全体におけるCO₂排出量（Scope1・2）の実質ゼロを2050年度までに目指します。

温室効果ガス（Scope1・2）削減ロードマップ



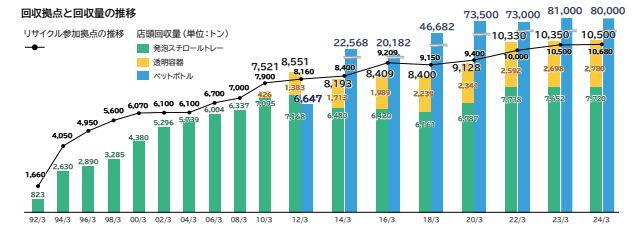
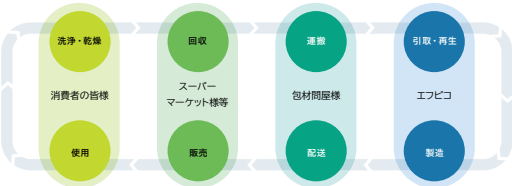
太陽光発電によるCO₂削減

関東エリア、中部エリア、関西エリアの3つの生産・物流拠点において太陽光発電設備の設置・運転を行っています。2024年3月に関西工場での運転が開始したことにより、エコトレのCO₂削減効果は7月1日から37%となります。

エフピコ方式リサイクル

エフピコは1990年、使用済み食品トレーをスーパーマーケットの店頭で回収し、リサイクル工場へと運んで新たな製品として生まれ変わらせる「エフピコ方式リサイクル」を開始し、30年以上にわたって推進しています。

1990年に6店舗でスタートした「エフピコ方式リサイクル」は、現在約10,680拠点にまで拡大しています。2008年には透明容器、2011年からは使用済みのペットボトルを透明容器にリサイクルする事業もスタートし、リサイクルの輪を拡大させ続けてきました。今後もさらに「エフピコ方式リサイクル」を進化・深化させていくための様々な施策を講じていきます。



エフピコ方式リサイクルの成果

使用済み容器のリサイクルはCO₂削減という形で明確に表れています。バージン素材を製造するための石油（地下資源）を使わず、使用済み容器という“地上資源”を利用することはCO₂削減において大きな効果があります。以下のような成果以外にも、ご処理のための経費が削減されるなどの社会的効果も生み出しています。

	発泡トレー		透明容器		ペットボトル	
	回収量	枚数	回収量	枚数	回収量	本数
2024年3月期(2023年度)	7,720t	19億3,000万枚	2,780t	2億7,770万枚	80,000t	32億本
累計(1990年～2024年3月)	182,539t	456億3,475万枚	29,396t	29億3,930万枚	619,789t	241億5,732万本

2024年3月期(2023年度)に削減したCO₂の量 約20.2万トン

マテリアリティ
> エフピコ方式リサイクル

工場見学の受け入れ

下記のリサイクル工場と選別センターにおいて工場見学の受け入れを行っています。近隣の小学校及び全国からの各種消費者団体、マスメディア各社、自治体などの方々にお越しいただき、2023年10月に累計50万人を突破しました。今後も工場見学を通じて、リサイクルの取り組みについてご説明するとともに、ご協力への感謝の気持ちをお伝えしてまいります。

工場見学の申し込み受付

見学受付日時：月～金（祝日を除く）9:00～16:30（一部施設を除く）ホームページからお申し込みいただけます。

▶詳細はHP（<https://www.fpc.jp/esg/environmenteffort/factory.html>）をご覧ください。



リサイクル工場

選別された容器が再生原料になるまでをご覧ください。

工場名	所在地	問い合わせ先
関東リサイクル工場 (関東PETリサイクル工場・茨城選別センター併設)	〒300-3561 茨城県結城郡八千代町大学平塚4448	関東リサイクル工場 0296-48-0400
中部リサイクル工場 (中部PETリサイクル工場・岐阜選別センター併設)	〒503-0231 岐阜県安八郡輪之内町南波字村第511-5	中部リサイクル工場 0584-68-2041
福山リサイクル工場 (福山選別センター併設)	〒721-0956 広島県福山市箕野町127-2	福山リサイクル工場 084-957-2301

選別センター

スーパーマーケットなどから回収された容器を選別する様子をご覧ください。

工場名	所在地	問い合わせ先
山形選別センター	〒991-0061 山形県東河江市中央工業団地162番地	山形選別センター 0237-85-3645
東海選別センター	〒411-0934 静岡県駿東郡長泉町下長塚八反田307-1	東海選別センター 055-980-4571
松本選別センター	〒390-0852 長野県松本市大字島立2267番地	サステナビリティ推進室 03-5325-7809
金沢選別センター	〒920-0376 石川県金沢市福地町北204番地22	サステナビリティ推進室 03-5325-7809
西宮選別センター	〒651-1431 兵庫県西宮市山崎町阪神流通センター1丁目98-2	西宮選別センター 078-907-1288
九州選別センター	〒842-0015 佐賀県神埼市神埼町肥前3032-1	九州選別センター 0952-51-1028

リサイクル工場

累計見学者数50万人突破！

2023年10月、1990年から受け入れを始めたリサイクル工場の見学者の累計が50万人を突破しました。

関東リサイクル工場、中部リサイクル工場、福山リサイクル工場の他、全国6カ所の選別センターにて工場見学を受け入れています。近隣の小学校、お取引先様、一般消費者の方々、消費者団体、各種メディア、自治体など、多くの見学者にお越しいただいています。

10月10日には福山リサイクル工場、翌11日には関東リサイクル工場において「見学者数50万人突破記念式典」を開催し、福山市立御幸小学校5年生の皆様と株式会社魚力の皆様と記念撮影を行いました。



エフピコ環境基金

気候変動及び海洋プラスチックごみ問題をはじめとする環境問題に対して様々な角度から活動している団体への助成を目的として創設した「エフピコ環境基金」も次年度で5年目を迎えます。助成先団体を実施するプログラムにはエフピコグループ社員も積極的に参加し、活動の後押しをしています。

第4回（2024年3月期）の助成先団体とその活動は以下の通りです。



環境教育・研究



公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク 宮城県
持続可能な社会の創り手を育てる新たな防災・気候変動環境学習の創造



特定非営利活動法人とす市民活動ネットワーク 佐賀県
緑豊かな森林を守るための次世代・消費者への木育推進事業



認定特定非営利活動法人 びわ湖トラスト 滋賀県
琵琶湖におけるマイクロプラスチックの調査と子供たちの環境教育の推進



小泉ユニバーサルビーチユニット 宮城県
子どもから発信する地球環境問題ー小泉地区ゴミレポートー



特定非営利活動法人 こもれびの里 岡山県
西日本豪雨災害の復興支援と高齢化した被災者が所有する荒廃した竹林と里山整備



一般社団法人 みんなでびぜん 岡山県
日精諸島の海ごみ0作戦

“みんなで環境問題について考え、行動を促していくための”
“人の輪づくり”を行っています。”



「食」課題解決・「食」支援に関わる活動



特定非営利活動法人フードバンクさが 佐賀県
食と農で人と人をつなぐ、実践型食育・農業事業



TeamJIN「仁」 広島県
アクティブラーニングでの学びを楽しく実践する「私たちの豊かな海づくりwithSDGs」



特定非営利活動法人 吉里吉里園 岩手県
自然環境教育～吉里吉里の森と共に生きる人材の育成～



特定非営利活動法人 百葉劇場 滋賀県
農の学び舎をつくらう！
農の学び舎をつくらう！

マテリアリティ
> エフピコ環境基金



湘南クリーンエイドフォーラムの様子は、YouTubeチャンネル「エフピコTV」で紹介中！



湘南クリーンエイドフォーラムの活動の様子（2024年3月22日）

環境保全活動



NPO法人 湘南クリーンエイドフォーラム 神奈川県
神奈川のビーチクリーン活動をワンボイス化プロジェクト



認定特定非営利活動法人 神奈川海難救助隊 神奈川県
海ごみ削減「金鷲マイクロプラスチックになる前に回収」活動



特定非営利活動法人 チャウス 群馬県
わたらせ川の環境保全・保護活動



特定非営利活動法人 河北潟湖沼研究所 石川県
ゴミゼロ河北湖の実現に向けたゴミ発生場所調査と啓発活動



特定非営利活動法人 エシカルプロジェクト 埼玉県
循環するコンポストの推進事業



瀬戸内海宇治島クラブ 広島県
宇治島サニークリーン作戦



NPO法人 荒川クリーンエイド・フォーラム 東京都
大坂・関西万博を契機としたごみゼロ共創ネットワーク構築



特定非営利活動法人 宮島ネットワーク 広島県
宮島と周辺の海洋環境の維持と生態系の保全



公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金 熊本県
地下水の涵養と啓発にかかるプロジェクト



NPO法人 ひらかた生物創育 LABO 大阪府
耕作放棄水田を利用した生物多様性保全型農業の実績



一般社団法人 くりはらツーリズムネットワーク 宮城県
CLEAN WETLANDS Project



特定非営利活動法人 ジョイライフさま 埼玉県
入間川の自然を守り環境保全の大切さを伝える自然体験

新たな価値を提供する 製品の開発

プラスチック使用量の削減というニーズが一層高まる中、エフビコは日本初の低発泡PSPの成形新技術により軽量化を実現したほか、オリジナル素材の開発を通じてお客様と社会に新たな価値を提供しています。

本体を60%軽量化

日本初となる低発泡成形新技術を開発

エフビコは積水化成品工業株式会社様と共同で、日本初となる低発泡PSPの成形新技術を開発しました。非発泡容器と同等のシャープな形状を実現しながら、容器本体（蓋は除く）を60%軽量化。エフビコ独自の金型設計技術を活かして従来のPSP発泡シートでは不可能とされてきたシャープな形状を可能にするとともに、軽量化を実現しました。



従来品と同強度・耐衝撃性を維持しながらプラスチック使用量を25%以上削減

「耐寒PPiP-タルク」を新開発

冷凍市場のさらなる拡大を受け、2024年、「耐寒PPiP-タルク」を新開発しました。従来の耐寒PP製品と同じ強度・耐衝撃性を維持しながら、プラスチック使用量も25%以上削減しました。

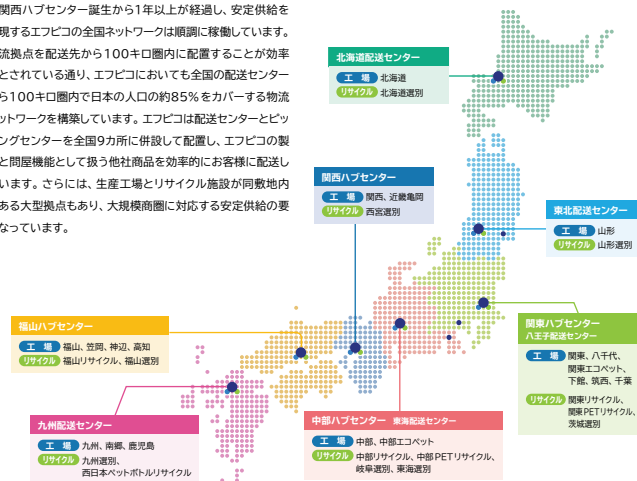


製商品の安定供給

エフビコでは使用済み容器をリサイクルした素材も活用して製品を生産し、自社物流によって製商品をお客様へと配送しています。リサイクル施設、生産工場、物流拠点を全国にバランス良く配置した製商品の供給ネットワークに加え、計画的な生産のための高精度な予測やリスク管理を徹底し、安定供給を実現しています。

全国ネットワークによる安定供給

関西ハブセンター誕生から1年以上が経過し、安定供給を実現するエフビコの全国ネットワークは順調に稼働しています。物流拠点を配送先から100キロ圏内に配置することが効率的とされている通り、エフビコにおいても全国の配送センターから100キロ圏内で日本の人口の約85%をカバーする物流ネットワークを構築しています。エフビコは配送センターとピッキングセンターを全国9カ所に併設して配置し、エフビコの製品と問屋機能として扱う他社商品を効率的にお客様に配送しています。さらには、生産工場とリサイクル施設が同敷地内にある大型拠点もあり、大規模商圏に対応する安定供給の要となっています。



SCMによる継続的な供給計画の精度向上

エフビコのSCM（サプライチェーン・マネジメントシステム）は、販売スタッフが現場で得た最新の受注予測に基づいた新しい未来需要予測と、過去の受注実績による統計予測に基づいてメンテナンスします。そして、生産や物流、販売の現場スタッフからのフィードバックによりその精度を高めています。SCMチームは、この緊密な連携の中心となり繁忙期や当然の需要増加などにも対応しています。



従業員の エンゲージメント向上

エフビコグループは、「世界人権宣言」や「労働における基本的原則及び権利に関するILO（国際労働機関）宣言」等の国際規範を支持しており、以下の方針に基づいて人権と個人を尊重した安全で働きやすい職場環境を実現します。



エフビコの人権尊重の考え方

エフビコグループ人権方針

- 1 全ての人がお互いの個性と人権を尊重し、年齢・国籍・人種・信条・宗教・性別・性的指向・性自認・障がい・社会的身分や社内的地位などを理由に差別されることなく公正な扱いを受け、平等な機会を得る権利を有するという基本原則の下、「エフビコグループ行動憲章」「エフビココンプライアンス行動規範」に基づき全ての事業活動において、人権と個人を尊重し、良き企業市民として高い倫理観と社会的良識を持って行動し、全てのステークホルダーと健全かつ正常な関係を保ち、社会から信頼される企業グループとして持続的に企業価値を高めて参ります。
- 2 ハラスメントを禁止し、そのような言動を一切容認しません。ハラスメントの防止に係る体制の整備、発生したハラスメントへの的確な対応を行うことによりハラスメントの防止を図り、業務の円滑な運営と働きやすい職場環境を確保します。
- 3 法令及びその他の労働基準を遵守し、事業活動を行ういかなる場所でも、児童労働・強制労働を禁止します。
- 4 心身ともに健康で、安全かつ安心していきいきと働くことができる職場環境を整備するとともに、仕事と生活の調和のとれた働き方を推進します。
- 5 労働法令を遵守し、社員へ最低賃金以上の賃金を支払います。
- 6 労働者の団体権、団体交渉権等を企業として尊重すべき基本的人権の要素と考え、労働者の権利を妨げません。
- 7 事業活動を行う国・地域において適用される法令を遵守します。万一、当該国・地域の法規制と国際的な人権規範が相反する場合には、当該国・地域の法令の範囲内で、国際的な人権規範を尊重する方法を追求します。

人権方針に基づく取り組み

エフビコの取締役会が「エフビコグループ人権方針」の遵守・実施状況を監督し、以下のような様々な取り組みを実施しています。

児童労働・強制労働の禁止

採用活動にあたっては、当該国・地域の法令を遵守します。採用時には年齢確認を徹底することで、児童労働の発生を防止します。また、強制労働防止のため、パスポートなど社員的重要書類の会社保管や移動の自由の制限は行いません。

同一労働同一賃金

エフビコグループは、法律で定められた最低賃金以上の支払いを遵守し、同一資格・同一職務レベルにおいて統一された報酬体系を適用しています。

ハラスメント防止研修の実施

エフビコグループの管理職、一般社員各々を対象として、実例・判例をふまえた講義や動画視聴によるハラスメント防止研修を実施しています。特に管理職に対しては、エフビコグループの職場相談窓口に届きたいじめや嫌がらせの実情及び部下への指導方法に関する講義のほか、一部の管理職にはグループワークを取り入れるなど研修内容を工夫しています。実績としては、管理職及び部下を持つ社員1,284名、一般社員843名、計2,127名が受講済みとなっています。（2024年3月時点）

マテリアリティ
> 従業員のエンゲージメント向上

単身者用住宅「Pico House（ピコハウス）」

エフビコグループでは、主に生産・物流拠点へ通勤するために近隣に住居を必要とする社員が安心して働けるよう、単身者用住宅「Pico House」を提供しています。ワンルームの個室でバス・トイレはセパレートタイプ。家具・家電も備え付けて、社員の快適な暮らしを支えています。



イキイキと働くことのできる職場環境の整備

エフビコグループは、社員一人ひとりの能力や特性を最大限に発揮してその役割を果たし、やりがいや充実感を持ちながらイキイキと働ける環境を作ることが企業価値の向上につながると考え、各種取り組みを通じて職場環境の整備に努めています。

主な取り組み

制度・施策	内 容
時差出勤	「労働時間の最適化」の取り組みとして、仕事の性質に合わせて働くことができるよう8パターンの時差出勤を導入。
スマイル休暇	労働時間の有効活用と心身のリフレッシュ等を図ることを目的に導入（原則、連続5日間の年次有給休暇取得）。
時間単位の年次有給休暇	通院や子どもの学校行事への参加、介護等の事情に応じて柔軟に取得できるよう時間単位の年次有給休暇制度を導入。
育児時短勤務	最大「小学校3年生の年度末」まで延長できるよう育児短時間勤務拡充。
ノー残業デー	社員が仕事と生活の調和を図りつつ効率的な業務遂行を実現することを目的に、原則週2日のノー残業デーを導入。
テレワーク	出社との最適な組み合わせにより、生産性の維持・向上の実現を図ることを目的にテレワークを導入。
レクリエーション費補助	社内旅行、忘新年会、歓迎会など社員の親睦を深める行事に対して一定額の費用をサポート。
男性の育児休暇	男性社員が、子どもが1歳になるまでの間に連続5日間の休暇取得を義務化する制度を導入。併せて男性の育児休業の取得も促進。

育児がしやすい職場環境づくりを促進

男性取得者の声



育児しやすい職場環境づくりを促進するためのハンドブック『仕事と育児の両立のために』

2023年7月、エフビコは子どもが1歳になるまでの間、男性社員に連続5日間の育児休暇取得を義務とする男性育児制度を開始しました。あわせて男性の育児休業の取得を促進しています。

子育て中のメンバーを支えるのは当然

東京4部 営業1課 チーフマネージャー 高木 修

子育て中の社員は、子どもの発熱など急に休まざるを得ないことが頻繁にあります。チームで仕事をしているのですから、お互いの事情を理解し、仕事を助け合うことは当たり前です。罪悪感なく育児休業を取得してほしいですね。

新生活に慣れるための1カ月

容積開発部 開発1課 リーダー 石橋 涼

昨年、初めての子どもが生まれ、「仕事と子育て」という新しい生活に慣れるために1カ月間の育児休業を取得しました。職場の理解も十分で、チームメンバーに仕事を引き継ぎ、育児に専念することができました。

職場のフォローで育児に専念

東京営業3部 営業2課 リーダー 鈴木 貴博

次男が誕生し1週間取得しました。家事や長男の育児をして、家族4人のかげがえのない時間を過ごすことができました。職場ではメンバーが仕事をしっかりフォローしてくれました。



インクルージョンの推進

障がいのある人材をエフビコグループで積極的に雇用するとともに、お取引様での雇用をサポートしています。障がいの有無にこだわらない心のバリアフリーを目指してフロアホッケー活動を行うなど、インクルージョンの推進を行っています。

障がいのある人材の活躍

1986年に障がいのある人材の雇用をスタートして以来、現在に至るまでその規模と内容は大きく発展を続けています。グループ全体で障がいのある社員の数は393名、障がい者雇用率は12.6%にのぼり、全国20の事業所で活躍しています。



1986
知的障がいの子を持つ親の会「あひるの会」とのつながりで、(株)ダックスを創立し、発泡トレー製造での雇用を開始



1995
高知県内の事業所において透明容器の製造を開始。後に佐賀県内の事業所でも本業務をスタート



2006
弁当箱などの折箱タイプ容器製造で管利法人初の就労継続支援A型事業を開始(※翌年、エフビコ愛バック(株)に発展)



2008
リサイクル事業で回収した食品トレーの選別を開始。後に透明容器の選別業務へ拡大



2017
4社の特別子会社を全国規模の特別子会社、エフビコダックス(株)として1社に再編



2019
エフビコグループ会社での一般就労移行も進展

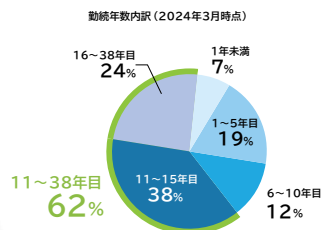
お取引様の障がいのある人材の雇用サポート

エフビコでは障がいのある人材を積極的に雇用しているだけでなく、38年にわたり培ってきた人材活用のノウハウ、お取引様の障がい者雇用に役立てていただく活動も行っています。2024年3月時点で、53事業所760名の障がい者雇用が新たに生まれました。お取引様の様々な職場で、障がいのある人材が貴重な戦力となって働くサポートをしています。



マテリアリティ

> インクルージョンの推進



2024年3月時点	
障がいのある社員数	393名
内訳	身体障がい 37名(うち重度16名)
	知的障がい 340名(うち重度 ^(注1) 255名)
	精神障がい 16名
雇用率換算数 ^(注2)	662名
障がい者雇用率	12.6%

(注1) 職業判定上の重度を含む

(注2) 重度障がいのある人を2、短時間労働者を0.5と換算した人

フロアホッケーを通じたインクルージョンの推進

エフビコグループでは、障がいの有無にこだわらない心のバリアフリーを職場に浸透させたいという思いからユニバーサルスポーツであるフロアホッケー活動を2010年から行っています。現在では障がいのある社員と障がいのない社員の混成チームが全国で16チーム活動しています。さらには、大規模なフロアホッケー大会のメインスポンサーにもなり、大会の運営も多くの社員がボランティアとして支えています。エフビコはインクルージョンの輪をこれからも広げ続けます。



コーポレートガバナンス



エフビコでは、透明性の高いガバナンス体制のもとで、あらゆる意思決定を行っています。
また、持続的な成長と長期的な企業価値を向上させることを目指し、社内体制の整備に努めています。

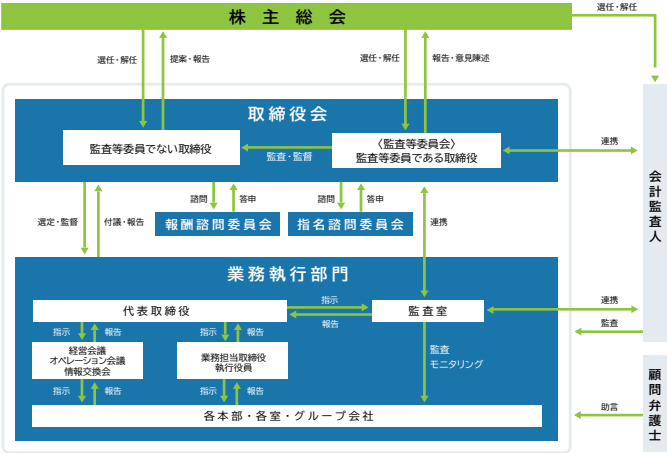
エフビコのコーポレートガバナンスに関する基本的な考え方は、意思決定の透明性・公正性を確保し、保有する経営資源（人・物・金・情報）を有効に活用することです。さらにこれらを迅速かつ果敢な意思決定により実行し、持続的な成長と長期的な企業価値を向上させることを目指しています。そのための基本方針として右の5つを掲げています。

- 1 株主の権利・平等性の確保
- 2 株主以外のステークホルダーとの適切な協働
- 3 適切な情報開示と透明性の確保
- 4 取締役会等の責務
- 5 株主との対話

ガバナンス体制

経営の意思決定の迅速化と取締役の職務執行の監査・監督機能を強化することを目的として、監査等委員会設置会社を選択しています。独立社外取締役のみで構成される監査等委員会が経営監視の役割を担い、透明性の高い経営の実現に取り組んでいます。

内部統制システムの概要を含むコーポレートガバナンス体制についての模式図



マテリアリティ
> コーポレートガバナンス

コンプライアンス

企業倫理の確立と法令遵守を推進するため、社長直轄の法務・コンプライアンス統括室を設置。「エフビコグループ行動憲章」、「エフビココンプライアンス行動規範」、「行動羅針盤」を施行し、健全な企業風土の醸成とともに社内規定の遵守の指導徹底に取り組んでいます。

またグループ内のコンプライアンスを徹底するため、2年に1度、社長直轄の監査室による内部監査を実施し、業務執行部門のリスク管理状況、コンプライアンス状況も含めモニタリングを行い、必要であれば改善要請を行うなどの体制を構築しています。取締役会においては、内部通報の件数及び内容が報告され、「エフビコグループ行動憲章」及び「エフビココンプライアンス行動規範」の有効性の検証を半年ごとに行っています。

リスクマネジメント

取締役会にて「リスク管理規程」を定め、リスクを区分してグループ全体のリスクを適切に管理しています。生産・販売・物流に関する業務リスクについては、取締役、執行役員、ジェネラルマネージャーが参加するオペレーション会議を開催し、グループ会社を含むリスク管理については、取締役、執行役員やグループ会社の代表者が参加する情報交換会を開催してリスク管理に取り組む体制を構築しています。リスク管理の具体例は以下の通り。

リスクサバイの実施

自然災害による被害を最小限に留めること、また労働災害の発生を未然に防ぐことを目的に、各生産・物流拠点のリスクサバイを行っています。外部の専門コンサルタントが直接事業所を訪問・調査し、リスクの洗い出し、リスクの分析・評価を行っています。

製品安全のリスクへの対応

食品安全マネジメントシステムに関する国際規格である「FSSC22000」の認証取得を継続して進めており、2024年3月末時点でリサイクル・物流施設を含めた25工場において取得しています。

自然災害への対応

自然災害に対するリスク管理としては、非常用備品の整備、火災時の消火訓練、災害時優先電話の設置、72時間の電力を確保した非常用発電設備の整備などを行うとともに、安否確認システムを導入し定期的に訓練を実施しています。

情報セキュリティに関するリスク対応

オフィスでの入退場管理、車両の出入りの多い複合施設ではナンバプレートによる入退場管理を行っています。データ管理手法としては、定期的なバックアップ、非常時対応用の外部データセンターの活用、回線の二重化、社外メール誤送信回避システム、専門業者によるPC廃棄などを実践しています。

株主とのかわり

持続的な成長と中長期的な企業価値向上に資するため、エフビコは株主の皆さまとの建設的な対話を行い、積極的に株主の皆さまの意見や要望を経営に反映させていくことが重要と考えています。株主総会や年2回の機関投資家向け決算説明会以外にも、個別ミーティングや施設見学会などを実施し、経営戦略や事業内容をよりわかりやすく説明することにより、株主の皆さまとの信頼関係構築と適正な株価の形成を図っています。また、常に適時・適正・迅速・公平な企業情報の開示に努めており、有価証券報告書・決算短信・決算説明会資料・プレスリリースなどはホームページの「株主・投資家情報」で公開しています。

健康経営

エフビコグループ健康宣言や、健康経営戦略マップにもとづき、社員一人ひとりがイキイキと働ける会社にするための様々なプログラムを実施しています。

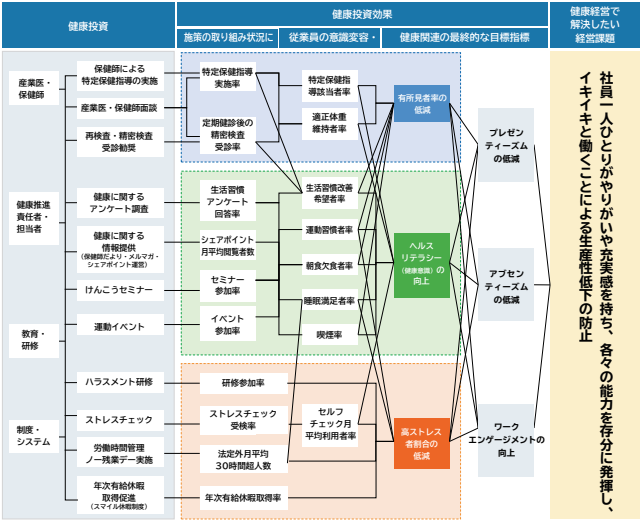
「健康経営優良法人(大規模法人部門)」に3年連続認定

エフビコは、従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、健康の保持・増進につながる取り組みを戦略的に実践する企業として、3年連続で「健康経営優良法人(大規模法人部門)」に認定されました。



エフビコグループ 健康経営戦略マップ

エフビコグループでは、健康経営戦略のストーリーを可視化し、効果的にPDCAサイクルを回すために「健康経営戦略マップ」を作成・運用しています。項目ごとに目標値を定め、各種取り組みを推進しています。



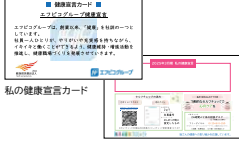
マテリアリティ
> 健康経営

エフビコグループ健康宣言

エフビコグループは、創業以来、「健康」を社訓の一つとしています。社員一人ひとりが、やりがいや充実感を持ちながら、イキイキと働くことができるよう、健康維持・増進活動を推進し、健康職場づくりを発展させていきます。

「職場で健康プロジェクト」の実施

「私の健康宣言カード」
毎年健康宣言カードをグループ社員に配付し、社員一人ひとりがその年の健康活動目標を記載して健康維持・増進活動を推進しています。



健康セミナー

身体と心の健康診断
毎年の定期健康診断等のほか、50人未満の事業所も含め全社員を対象としてストレスチェックの受検率向上に取り組んでいます。2024年3月実績で、定期健康診断受診率は100%、ストレスチェック受検率は97.5%です。

産業医によるサポート・保健指導
50人未満の事業場を含むすべての事業場において産業医を選任し、産業医と連携した安全衛生活動を進めています。また、保健師による特定保健指導の実施や、定期健康診断結果フォローも実施しています。さらに、外部機関と契約し24時間365日、健康相談が受けられる体制を整えています。

「健康セミナー」
社員の心身の健康について維持増進を図るために毎年「健康セミナー」を開催しています。2024年3月期は睡眠、腸活、生活習慣、ストレッチなどをテーマに計9回開催しました。

生活習慣改善への取り組み
生活習慣改善の推進のため、生活習慣調査を毎年実施しています。加えて、卒煙強化週間やPicoベジweek(野菜摂取週間)、運動機能テストなどを企画し、社員のセルフケアの推進を図っています。2023年度は、運動習慣の形成やコミュニケーションの促進を目的に、スマホの歩数で競う『エフビコグループ会社対抗ウォークラリー』を開催し、1,385名が参加しました。



スマホ歩数ウォークラリー

休職復帰支援体制
円滑な職場復帰の実現を図るための支援内容及び体制についてのマニュアルを作成し、長期欠勤者の休職開始のフォローおよび復職フォローの体制を整えています。

健康情報の発信
社内イントラネットに「職場で健康プロジェクト」専用ページを設け、プロジェクトプログラムの情報発信をしています。また、毎月の『保健師だより』や「職場で健康プロジェクト」のメルマガ配信など、あらゆる機会を通じて健康情報を積極的に発信し、ヘルスリテラシーの向上を促進しています。



保健師だより

人材育成方針

働きやすい会社や働きがいのある会社といった“いい会社”を目指し、組織の整備を図りながら、全ての社員がそれぞれの人生を豊かにできるような様々なプログラムを実施しています。



人材育成方針

持続的な成長のために努力と挑戦を続けるエフビコグループの最大の資産は“人材”です。人材の採用から教育、活用、そして退職に至るまで、一人ひとりが個性を発揮できる“人づくり”の仕組みの強化を通じて、やりがいと充実感ある職業人生の実現と組織の一層の活性化を推進し、企業グループ全体の価値向上の途を進んでまいります。

対話を重視した評価制度と65歳までの選択式定年延長

評価者と被評価者の対話を重視する評価制度を導入しています。社員が中長期的な取り組みを考え、目標設定の場で上司と対話することにより、各自の自律的な成長や改善活動をバックアップします。また、評価の場面でも、社員から半期・通期の目標に対する取り組み結果をアピールした上で、上司との評価のすり合わせを行うとともに、定年延長・再雇用についても社員との対話を通して希望に応じています。社員が定年を60～65歳の中から選べるほか、65歳以前の定年退職を選択した場合でも、希望者は全員、再雇用社員（1年更新）として65歳まで働くことが可能です。また、本人と会社が希望する場合、65～70歳の再雇用（1年更新）も可能です。

	OFF-JT		一般教育		自己啓発	
役職者	評価者トレーニング		ハラスメント防止研修 管理職向け		健康セミナー 資格取得 社内通信教育受講支援制度 資格取得支援制度 社外スクール 受講支援制度	
管理職	新任マネージャー研修					
中堅	リーダー研修	海外研修	ハラスメント防止研修 管理職以外向け			
若手	スキルアップ研修	マンツーマン リーダー研修				
新入社員	新入社員研修	フォローアップ 研修				

女性の活躍を推進

エフビコは女性活躍推進法に基づき、「女性活躍推進企業」として2023年に「えるぼし（2段階目）」に認定されました。労働時間等の働き方や、管理職比率、多様なキャリアコースについて評価基準を満たしており、特に女性の管理職比率は産業平均値の約2倍の水準となっています。女性社員の職域拡大、継続就業支援、管理職の増加を目指す取り組みに関しては、「一般事業主行動計画」で女性総合職の採用比率30%以上（2023年4月時点で24.0%）、女性管理職50名以上（2023年4月に57名となり達成）、役職者（課長職以上）5名以上（2023年4月に6名となり達成）を目標に設定しています。今後は特に女性総合職の積極的採用及びより高位の役職への女性の登用を進め、女性の活躍の場の拡充を推進します。



えるぼし（2段階目）

マテリアリティ

> 人材育成方針 / コミュニティへの参画

コミュニティへの参画



エフビコはコミュニティの一員として事業所がある地域の方々との共生を目指しています。2023年度は、スーパーマーケット様をはじめとするステークホルダーと環境イベントを開催するとともに、展示会への参加や、団体・教育機関向けの出前授業などを実施しました。

2023年度の主な参加イベント

5月	- 福山ばら祭り(広島県)
6月	- ハ王子フェスティバル(東京都) - 環境フェス都賀(茨城県)
7月	- エコテクノ2023(福岡県) - 小泉ユニバーサルビークルユニット(宮城県) - くりはらツーリズムネットワーク(宮城県) - 吉里吉里園(岩手県) - 宮島ネットワーク(広島県) - 瀬戸内宇治島クラブ(広島県)
8月	- オンライン工場見学 - エコワールドフェス大宮(大阪府) - いしかり環境フェア(石川県) - 日本プラスチック食品容器工業 出展授業・緑島町リサイクルセンター(東京都)
9月	- 荒川クリーンエイドフォーラム(東京都)
10月	- 県立広島大学講義(広島県) - 小学校でのユーザー様とのコラボ出前授業(東京都) - やまがた環境館(山形県) - 3R推進月間・食ロス削減月間関連イベント - 早稲田大学講義(兵庫県) - おの志来市実産(兵庫県) - 佐賀さいこうフェス2023(佐賀県) - ユーザー様とのコラボ勉強会(北海道) - 第17回3R推進全国大会(秋田県) - 桜川こどもEXPO(大阪府) - 荒川クリーンエイドフォーラム(東京都) - さとうみフェスタ2023(広島県) - つやま文化祭(山形県)
11月	- さとうみフェスタワークショップ(広島県) - エコ検定アワード2023(東京都) - 三原市こどもおしごと体験イベント(広島県) - YOKOHAMA RePLASTICフォーラム(神奈川県) - ひばりフェス2023(広島県) - ユーザー様との取り組み(静岡県)
12月	- 世田谷2区推進委員会 子どもエコマーケットでお買い物体験(東京都) - エコテック2023(東京都) - GSHIPゼロチレ広島(広島県) - ユーザー様との取り組み(東京都) - ひょうごエコecoフォーラム(兵庫県)
1月	- 小学校でのユーザー様とのコラボ出前授業(神奈川県) - 小学校でのユーザー様とのコラボ出前授業(香川県) - 広島県GSHIPゼロチャレンジ(広島県) - NACS環境フォーラム講師派遣(大阪府)
2月	- ゴビ地環環境塾(岐阜県) - 山形市ごみ減量講演会(山形県) - GSHIPゼロチレ広島(広島県)
3月	- 環境研修会(東京都) - 海南CF・ビーチクリーン撮影(神奈川県) - こどもエコクラブ全国大会(東京都)



福山ばら祭り（広島県）



ハ王子フェスティバル（東京都）



ユーザー様との取り組み（静岡県）



ユーザー様との取り組み（東京都）



小学校でのユーザー様とのコラボ出前授業（神奈川県）

企業プロフィール

Corporate Overview

Contents

会社概要 P57

グループ会社・拠点一覧 P58

グループ相関図 P59

人材データサマリー P61

財務サマリー（連結） P62

環境データサマリー P63

社会的な評価 P65

エフビコのあゆみ P67

編集後記 P70

エフビコグループの
製造・物流・販売・
リサイクルネットワーク

- 営業所
- 生産工場
- リサイクル工場 / 選別センター
- 配送センター / ピッキングセンター

大阪支店
(大阪市北区)

東京本社
(東京都新宿区)

福山本社
(広島県福山市)

会社概要

商号 株式会社エフビコ
設立 1962年(昭和37年)7月
代表者 代表取締役会長
兼 エフビコグループ代表 佐藤 守正
代表取締役社長 安田 和之
資本金 13,150百万円
社員数 984名(エフビコグループ:5,104名)

事業内容 ポリスチレンペーパーおよびその他の
合成樹脂製簡易食品容器の製造・販売並びに
関連包装資材等の販売



ロゴに使用しているFPは創業当時の社名である「福山パル紙工」に由来しています。

グループ会社・拠点一覧

Group Company/Base

グループ会社

製造

株式会社エフビコ北海道
株式会社エフビコ山形
株式会社エフビコ茨城
株式会社エフビコ八千代
株式会社エフビコ下関
株式会社エフビコ関西
株式会社エフビコ岡山
株式会社エフビコ中部
株式会社エフビコ兵庫

物流

株式会社エフビコ笠岡
株式会社エフビコ神辺
株式会社エフビコ九州
エフビコダックス株式会社
エフビコ豊田株式会社
エフビコアルライト株式会社
エフビコグラビア株式会社
西日本ベトボルリサイクル株式会社

商社・販売・その他

エフビコ商事株式会社
エフビコチューバ株式会社
エフビコダイワフーズ株式会社
エフビコインターパック株式会社
エフビコイシダ株式会社
エフビコ上田株式会社
株式会社アベックス

エフビコの拠点一覧

本社

福山本社(広島県福山市)
東京本社(東京都新宿区)

支店

大阪支店(大阪市北区)

営業所

札幌営業所(札幌市中央区)
仙台営業所(仙台市青葉区)
新潟営業所(新潟市中央区)
静岡営業所(静岡市駿河区)
名古屋営業所(名古屋市中村区)
北陸営業所(石川県金沢市)
広島営業所(広島市西区)
四国営業所(香川県高松市)
福岡営業所(福岡市博多区)
札幌工場(札幌市中央区)
仙台工場(仙台市青葉区)
新潟工場(新潟市中央区)
静岡工場(静岡市駿河区)
名古屋工場(名古屋市中村区)
北陸工場(石川県金沢市)
広島工場(広島市西区)
四国工場(香川県高松市)
福岡工場(福岡市博多区)
エフビコダックス(株)千葉工場(千葉県習志野市)
富山工場(富山県射水市)
中部工場(岐阜県安八郡)
中部エコベット工場(岐阜県安八郡)
近畿亀岡工場(京都府亀岡市)
関西工場(兵庫県小野市)
空閑工場(岡山県笠岡市)
福山工場(広島県福山市)
神辺工場(広島県福山市)
エフビコダックス(株)高知工場(高知県高知市)
九州工場(佐賀県神埼郡)
南郷工場(佐賀県日南市)
鹿児島工場(鹿児島県鹿児島市)

研究所

総合研究所(広島県福山市)

生産工場

北海道工場(北海道石狩市)
山形工場(山形県寒河江市)
関東八千代工場(茨城県結城郡)
関東工場(茨城県結城郡)
関東エコベット工場(茨城県結城郡)
関東下関工場(茨城県筑西市)
茨西工場(茨城県筑西市)
関東つくば工場(茨城県下妻市)
エフビコダックス(株)千葉工場(千葉県習志野市)
富山工場(富山県射水市)
中部工場(岐阜県安八郡)
中部エコベット工場(岐阜県安八郡)
近畿亀岡工場(京都府亀岡市)
関西工場(兵庫県小野市)
空閑工場(岡山県笠岡市)
福山工場(広島県福山市)
神辺工場(広島県福山市)
エフビコダックス(株)高知工場(高知県高知市)
九州工場(佐賀県神埼郡)
南郷工場(佐賀県日南市)
鹿児島工場(鹿児島県鹿児島市)

リサイクル工場 / 選別センター

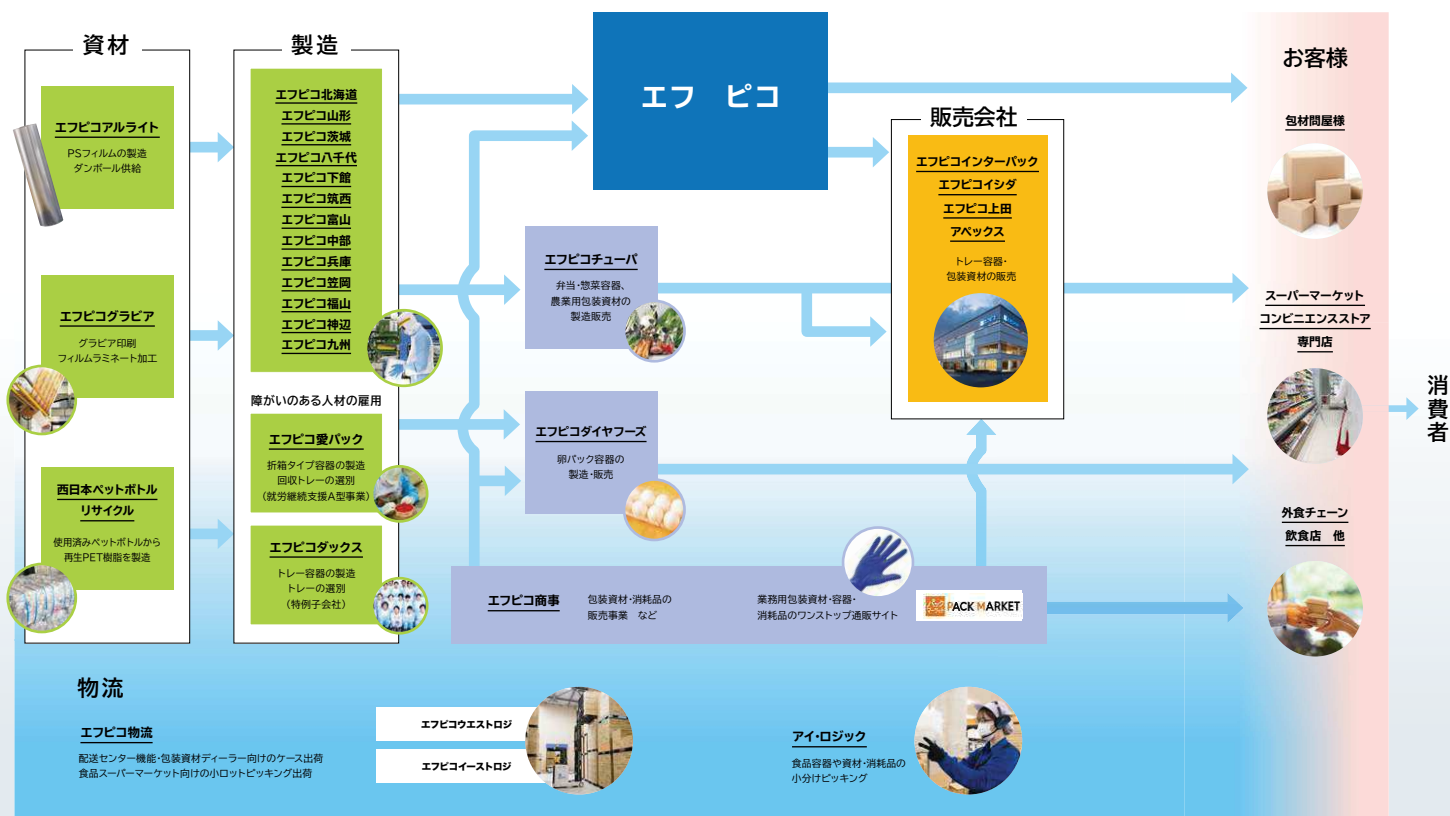
関東リサイクル工場(茨城県結城郡)
関東PETリサイクル工場(茨城県結城郡)
中部リサイクル工場(岐阜県安八郡)
中部PETリサイクル工場(岐阜県安八郡)
福山リサイクル工場(広島県福山市)
北海道選別センター(北海道石狩市)
山形選別センター(山形県寒河江市)
茨城選別センター(茨城県坂東市)
松本選別センター(長野県松本市)
東海選別センター(静岡県駿東郡)
岐阜選別センター(岐阜県安八郡)
金沢選別センター(石川県金沢市)
西宮選別センター(兵庫県西宮市)
福山選別センター(広島県福山市)
九州選別センター(佐賀県神埼郡)
西日本ベトボルリサイクル(北九州市若松区)

配送センター / ピッキングセンター

北海道配送センター(北海道石狩市)
東北配送センター(山形県寒河江市)
関東ハブセンター(茨城県結城郡)
八王子配送センター(東京都八王子市)
中部ハブセンター(岐阜県安八郡)
東海配送センター(静岡県駿東郡)
関西ハブセンター(兵庫県小野市)
福山ハブセンター(広島県福山市)
九州配送センター(佐賀県神埼郡)
北海道ピッキングセンター(北海道石狩市)
東北ピッキングセンター(宮城県黒川郡)
関東ピッキングセンター(茨城県結城郡)
茨城ピッキングセンター(茨城県結城郡)
八王子ピッキングセンター(東京都八王子市)
新潟ピッキングセンター(新潟県長岡市)
中部ピッキングセンター(岐阜県安八郡)
関西ピッキングセンター(神戸市北区)
福山ピッキングセンター(広島県福山市)
九州ピッキングセンター(佐賀県神埼郡)

グループ相関図

エフピコグループは、食品トレイ・容器の生産から配送・販売および関連する資材消耗品の販売まで、有機的に連携しグループの総合力でお客様をサポートしています。



人材データサマリー

詳細はこちらをご覧ください



エフビコの社会性に関するデータを紹介します。

従業員の構成 (2024年3月末現在)	男	女	合計
従業員数 (人)	657	327	984
外国人従業員数 (人)	1	5	6
平均年齢 (人)	44.8	35.7	41.8
30歳未満	112	121	233
30～39歳	130	84	214
40～49歳	164	100	264
50～59歳	185	17	202
60歳以上	66	5	71
平均勤続年数 (年)	18.0	12.0	16.0
連結従業員数 (人)	3,808	1,296	5,104

離職者数	早期	自己	会社	転籍	その他	合計
2023年度 (人)	0	30	0	0	0	30

新卒入社者の定着状況	男	女	合計
2021年4月新卒入社者数 (人)	17	17	34
2024年4月在籍者 (人)	15	16	31

管理職に占める女性比率	女 (人)	男 (人)	女性比率 (%)
	57	393	12.7

障がい者雇用	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
実人数 (人)	362	365	365	393
障がい者雇用率 (%)	12.7	12.6	12.5	12.6

ワーク・ライフ・バランス	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
有給休暇取得率 (%)	49.3	56.1	57.6	63.6
一人あたり月平均残業時間 (時間/月)	8.0	7.8	7.7	7.5
産前産後休業取得者数 (人)	12	15	14	18
育児休業取得者数 (人)	15	15	20	20
女性	14	13	18	15
男性	1	2	2	5
女性取得率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0
男性取得率 (%)	5.0	9.1	9.5	21.7
育児休業復帰率 (%)	96.0	95.2	100.0	95.2
男性育児休業取得率※ (%)	-	-	-	82.6

※エフビコ独自の休暇制度（育児を目的とした連続5日間の休暇）と育児休業を合わせた取得率

財務サマリー (連結)

エフビコグループの業績に関するデータを紹介します。

回次		第58期	第59期	第60期	第61期	第62期
決算年月		2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	2024年3月
売上高	(百万円)	186,349	187,509	195,700	211,285	222,100
経常利益	(百万円)	16,274	19,381	16,703	17,328	16,780
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	10,777	12,211	11,206	11,529	11,724
包括利益	(百万円)	10,461	13,021	11,118	11,558	12,485
純資産額	(百万円)	119,301	124,980	132,455	140,171	145,844
総資産額	(百万円)	242,497	247,234	262,695	298,623	298,580
1株当たり純資産額	(円)	1,436.07	1,520.06	1,610.11	1,703.56	1,795.71
1株当たり当期純利益	(円)	130.36	147.80	136.96	140.87	143.50
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	49.0	50.3	50.2	46.7	48.6
自己資本当期純利益率	(%)	9.4	10.0	8.8	8.5	8.2
株価収益率	(倍)	27.5	30.5	21.3	23.3	19.2
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	27,770	31,814	23,148	20,071	29,176
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△10,989	△19,131	△22,866	△34,306	△10,711
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△15,643	△15,086	1,578	16,745	△17,013
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	20,288	17,884	19,745	22,255	23,707

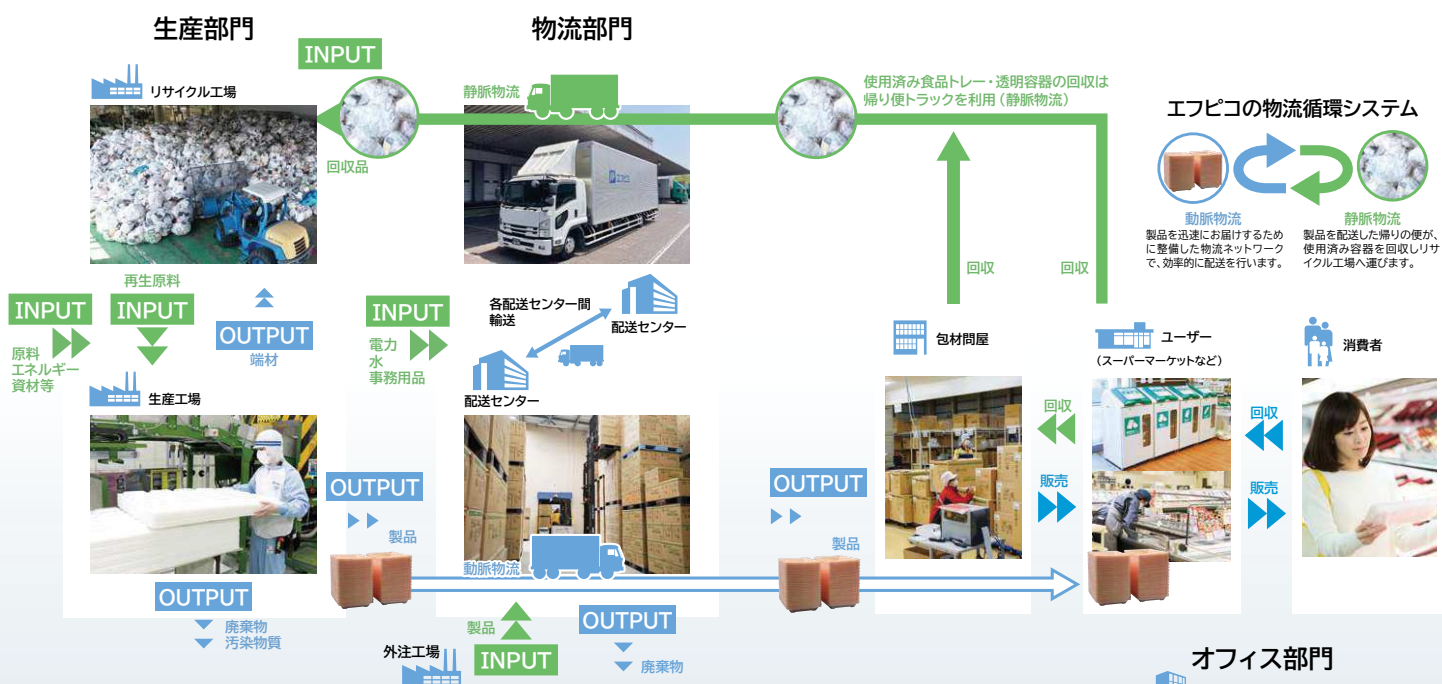
※1 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第60期の期首から適用しており第59期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

※2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

※3 エフビコは、2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、58期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益及び1株当たり当期純資産を算定しております。

環境データサマリー

エフビコは、自然環境への負荷を可能な限り低減・抑制するために、自らの企業活動が生み出した環境への影響を、正確に把握することに努めています。以下はCO₂排出量及び部門ごとの物質収支・エネルギー使用量です。



製造部門2023年度データ

INPUT	エネルギー	電力	404,809,378	kwh	OUTPUT	製品	製品生産量	207,299	t	
	化石エネルギー	96,812,980	MJ	出荷ラック台数			168,039	台		
	水資源	上水	631,657	m ³			廃棄物	燃焼	29,423	t
		地下水	191,143	m ³				Nox	3,591	kg
		工業用水	82,471	ton				SOx	755	kg
	原料 (樹脂類他)	210,290	t	BOO		6,005		kg		
	副資材	段ボール	39,396	t		環境汚染物質	CO2	3,030	kg	
		包装材	3,498	t			SS	642	kg	
		潤滑油	10,903	L						
		シンナー	48,828	L						
その他	紙	2,271,500	枚							

物流部門2023年度データ

INPUT		
エネルギー	電力	18,031,783 kWh
	化石エネルギー	2,680,667 MJ
水資源	上水	22,095 m ³
その他	紙	9,162,880 枚

OUTPUT	
廃棄物	462 t

オフィス部門2023年度データ

INPUT		
エネルギー	電力	3,660,003 kWh
水資源	上水	5,814 m ³
その他	紙	9,615,000 枚
OUTPUT		
廃棄物		50 t

詳細はこちらをご覧ください



社会的な評価

外部評価



エコマークアワード
第1回金賞受賞

(財)日本環境協会が設立した表彰制度。第1回の最高賞である金賞に「エフビコ方式による『トレー to トレー』のリサイクル」が選ばれました。それから13年、「エフビコ方式リサイクル」はさらなる発展を続けています。



容器製造やリサイクルの現場において、障がいのある人材が活躍し、それが企業全体の価値につながっていることが評価され、経済産業省から、2014年度「ダイバーシティ経営企業100選」に選定されました。



健康経営優良法人
Health and productivity

「健康優良法人（大規模法人部門）」は従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、健康の保持・増進につながる取り組みを戦略的に実践する企業を表彰するものです。エフビコは2022年から3年連続で認定されています。



えるぼし（2段階目）

女性活躍推進法に基づく「女性活躍推進企業」として2023年に「えるぼし（2段階目）」に認定されました。「労働時間等の働き方」「管理職比率」「多様なキャリアコース」の3つの評価基準を満たし、「一般事業主行動計画」を厚生労働省の女性の活躍推進企業データベースに掲載しています。



CDP気候変動への情報開示
2023年度評価「A」



サプライヤー・エンゲージメント評価
2023年度評価
「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」



東京証券取引所
(証券コード：7947)



ダイバーシティ&インクルージョンアワード

2023年12月、ダイバーシティとインクルージョンに取り組む企業を評価する日本最大のアワード「D&I AWARD」で最高位の「ベストワークプレイス」に認定されました。長年にわたる障がいのある人材の雇用推進や、仕事と育児の両立支援の取り組みなどの強化が評価されました。



従業員の健康増進のためにスポーツの実施に向けた積極的な取り組みを行う企業として「スポーツエールカンパニー2024」にスポーツ庁から認定されました。2018年度以来連続して認定されており、ブロンズ認定を受けています。

企業プロフィール
> 社会的な評価

ESG指数



世界主要企業約3,000社を対象とするESG評価に基づく株式指数シリーズ「FTSE4Good Index」に、エフビコも選定されています。

2023 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

女性活躍推進法により開示される女性雇用に関するデータに基づき多面的に性別多様性スコアを算出し、各業種から同スコアの高い企業を選別して指数を構築。「FTSE Blossom Japan Index」同様、GPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）が選定する米国のMSCI社が開発したESG指数の一つです。



S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

GPIF採用指数の一つで、環境情報の開示状況と炭素効率性の水準に着目して設計されたインデックスです。

環境関連参画団体



エコファースト企業制度
認定

エフビコグループは、業界トップランナー企業が地球温暖化対策や廃棄物・リサイクル対策など、自らの環境に関する取り組みを環境大臣に対して約束する制度である「エコ・ファースト企業」に2022年に認定されました。



エフビコは2019年に設立された「グリーン・オアシス・マテリアル・アライアンス（CLOMA）」に設立当初から幹事会社として参加しています。技術部会の副会長として、リサイクル技術や新素材の開発などに取り組んでいます。



循環経済パートナーシップ（略称：J4CE）は、循環経済への流れが世界的に加速化する中、国内の企業を含めた幅広い関係者の循環経済へのさらなる理解醸成と取り組みの促進を目指して、官民連携を強化することを目的として、2021年3月2日に、環境省、経済産業省、（一社）日本経済団体連合会（経団連）により創設されました。「エフビコ方式リサイクル」が、特に注目度の高い29件の事例をまとめた「注目事例集」に掲載されています。

エフビコのあゆみ

全体の出来事

- 1962 福山パール紙工株式会社設立。広島県福山市古宮町（現在の露町）に福山本社を設置し、PSP成形加工を開始
- 1972 福山配送センター（広島県福山市）を開設、以後各地に配送センターを設置
- 1976 自社製品の展示会「パールフェア（現エフビコフェア）」第1回目を開催
- 1979 配送体制強化のためエフビコ物流（株）を設立
- 1981 食品容器のファッション化に対応して、カラー食品容器の製造販売を開始
- 1983 東京支店（東京都練馬区）を開設
- 1985 大阪支店（大阪府大阪市）を開設
関東工場（茨城県八千代町）稼働、以後各地に生産工場を設置
- 1989 CIを導入、商号を株式会社エフビコに改める
広島証券取引所に株式上場
- 1991 大阪証券取引所市場第二部に株式上場
- 1997 代表取締役社長（当時）小松安弘が『藍綬褒章』を受章
- 2000 特例子会社（株）タックス四国本社工場（高知県南国市）を竣工、以後各地に特例子会社の事業所を設置
東京証券取引所市場第二部に株式上場
- 2001 東京支店を東京本社に昇格し、福山、東京2本社制に
- 2003 東日本ハブセンター（茨城県八千代町）完工
- 2005 東京証券取引所市場及び大阪証券取引所市場第一部に株式上場
- 2006 就労継続支援A型子会社を目的とする広島愛バック（株）（現エフビコ愛バック（株））設立、以後各地に愛バックの事業所を設置
- 2012 PET容器では世界で初となるPET2軸延伸製品を上市



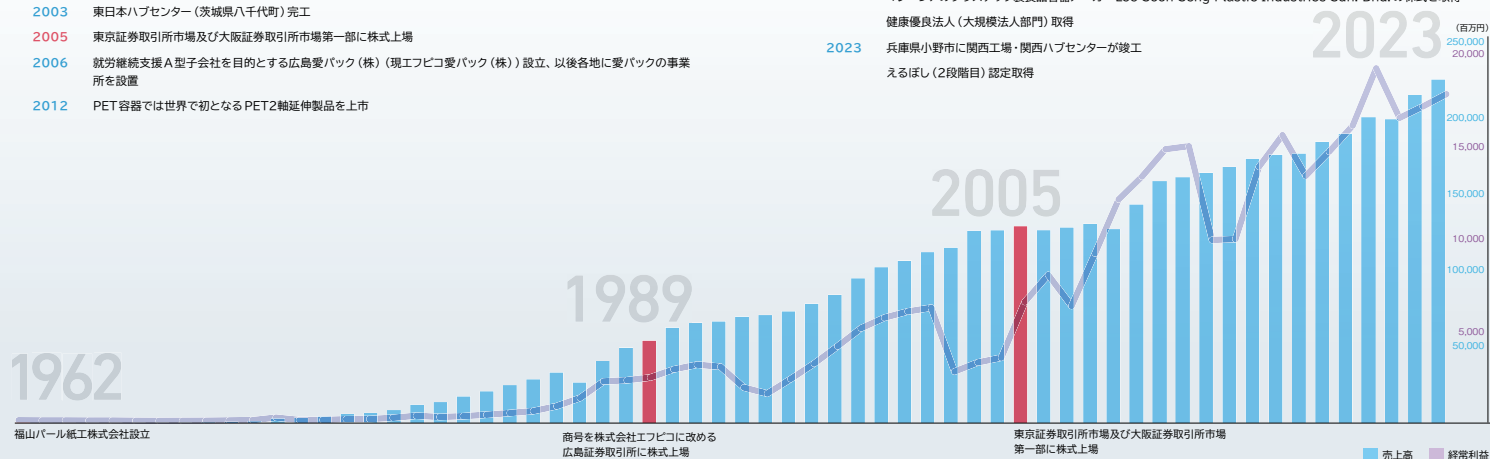
- 2013 代表取締役会長（当時）小松安弘が『旭日重光章』を受章
- 2014 福山クロスドックセンター稼働（広島県福山市）
エフビコ総合研究所・人材開発研修センター竣工（広島県福山市）
- 2015 経済産業省より「ダイバーシティ経営企業100選」に選出
経済産業省と東京証券取引所が選ぶ「攻めのIT銘柄」に選定
経済産業省主催「第6回ものづくり日本大賞（製品・技術開発部門）」優秀賞受賞
- 2016 代表取締役会長（当時）小松安弘が、「福山市名誉市民」に推戴される
- 2017 創業者小松安弘永眠
- 2018 エフビコアルライト本社工場竣工
広島営業所新社屋竣工
平成30年度「スポーツエルカンパニー」認定（スポーツ庁）
- 2019 第一回ジャパンタイムズ ESG アワード
- 2020 福山市総合体育館のネーミングライツを取得した「エフビコアリーナふくやま」オープン
- 2021 中部ハブセンター竣工
- 2022 東京証券取引所プライム市場へ移行（証券コード：7947）
マレーシアのプラスチック製食品容器メーカーLee Soon Seng Plastic Industries Sdn. Bhd.の株式を取得
健康優良法人（大規模法人部門）取得
- 2023 兵庫県小野市に関西工場・関西ハブセンターが竣工
えるぼし（2段階目）認定取得



エフビコ総合研究所・人材開発研修センター



関西工場・関西ハブセンター



エフピコのあゆみ

環境関連事業 / 成果など

- 1980 トレー容器のゴミ処理問題が発生、使用済みトレーの回収をいち早く開始する
- 1990 エフピコ方式のリサイクルスタート
- 1991 「エコトレー」が業界初のエコマーク認定
- 1993 (財) クリーン・ジャパン・センター主催「再資源化貢献企業表彰事業」にて『クリーン・ジャパン・センター会長賞』受賞
- 2007 『第1回容器包装3R推進環境大臣賞』にて『製品部門最優秀賞』受賞
- 2011 「エコマークアワード2010」にて『金賞』受賞
環境大臣より「エコファースト企業」として認定を受ける
再生PET容器「エコAPET」が(財)日本環境協会よりエコマーク商品認定を取得
- 2015 地球温暖化防止活動環境大臣表彰(対策活動実践・普及部門)受賞
- 2016 ペットボトルリサイクルからエコAPET製造までの一貫生産拠点
「中部エコペット工場」稼働
- 2017 関東エコペット工場稼働
- 2018 「G20イノベーション展」に出展
- 2019 「クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス」に幹事として参画
- 2020 「エフピコ環境基金」設立
- 2021 「カーボンオフセット宣言」発表
- 2022 関東八千代エリアに太陽光発電導入
関東リサイクル工場で100%再生エネ化導入
エフピコ中長期目標FPEA(エフピコエコアクション)2.0リリース
TCFDの提言へ賛同
中部エリアに太陽光発電導入
- 2023 G7広島サミット 国際メディアセンター(IMC)広報展示で、エフピコ方式のリサイクル「トレー to トレー」を出展
東京商工会議所が主催する「eco検定アワード 2023」でエコユニット部門の奨励賞を受賞
- 2024 CDP 気候変動Aランク評価及びサプライヤー・エンゲージメント・リーダー評価を取得
関西工場・関西ハブセンター屋上太陽光発電による再生可能エネルギー調達開始により、エコトレーのCO₂削減効果が37%に上昇
関西選別センター稼働予定



折箱容器を製造するエフピコ愛バック西宮工場

2023年のプロスポーツ界を振り返ると、プロ野球の阪神タイガースが38年ぶりの日本一、オリックス・バファローズがリーグ3連覇、サッカーJ1のヴィッセル神戸が悲願の初優勝と、関西がまさに主役となった一年となりました。そのヴィッセル神戸がノエビアスタジアム神戸でエフピコのユーザー様とコラボして発売された弁当容器に、エフピコ愛バック西宮工場(兵庫県西宮市)で製造した折箱容器が採用されました。「仕切り」がある折箱容器は組立や検品の難易度が高い製品ですが、障がいのある人材が一つひとつ手作業で丁寧につくっています。その「想い」がお弁当を食べてくださった観客の皆さんに伝わり、声援となって選手のプレーを後押ししたのではないかと勝手に想像しています。

エフピコも昨年、兵庫県小野市で関西工場・関西ハブセンターの稼働を開始し、近畿エリア向けの製品を近隣から配送できるようになりました。皆様のお役に立つ、便利で欠かすことのできない、食事が楽しくなる、環境に配慮した製品を必要な時に確実にお届けしたい——私たちもこの「想い」を込めて、これからも食品トレー・容器の安定供給に努めてまいります。

「エフピコレポート2024」を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。内容の継続的な改善のためにも、アンケートに是非ともご協力いただきますようお願い申し上げます。



サステナビリティ推進室
ジェネラルマネージャー
富樫英治

こちらのQRコードまたは
当レポートに添えてある
用紙よりアンケートにご協
力ください





福山本社	〒721-8607 広島県福山市曙町1-13-15	TEL (084) 953-1145
東京本社	〒163-6036 東京都新宿区西新宿6-8-1 新宿オークタワー 36F	TEL (03) 5320-0717
大阪支店	〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島3-6-32 ダイビル本館22F	TEL (06) 6441-2468
営業所	札幌、仙台、新潟、静岡、北陸、名古屋、広島、四国、福岡	

ホームページ <https://www.fpcoco.jp/> eメール Env-FP@fpcoco-net.co.jp